

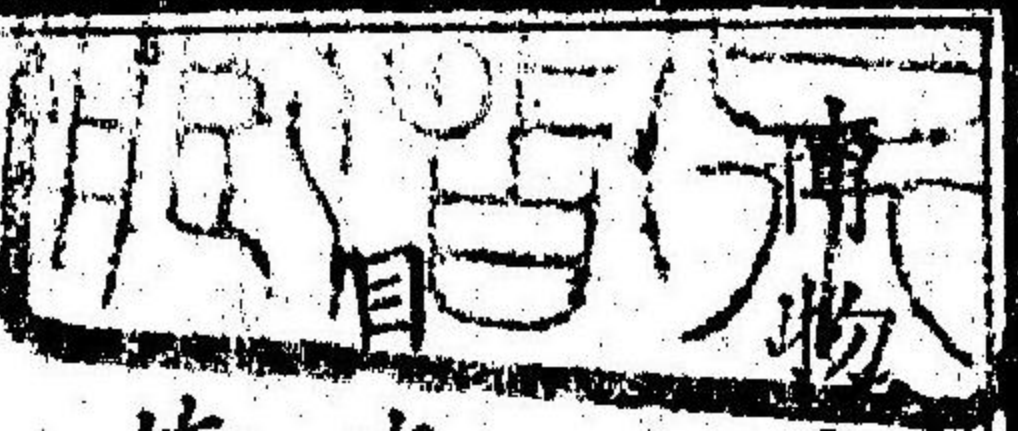
4  
3  
186

東 京 圖 書 館

三 冊	一 八 三 号	九 架	四 函	屬	類
--------	------------------	--------	--------	---	---

彌 内  
澤 田  
博 物 全 志  
動 物 篇 二





全志動物篇卷之二

目次

第七回 有爪族ニシテ齒牙ナキ胎生獸

ノ事

木狗 モクイヌ アルマジロ 穿山甲

第八回 咀齧獸ノ事

カチリケモ

海狸 栗鼠 鼠 ハムステル 鼠族  
種 土撥鼠 ヤクモツ 箭猪 ハネシ

全志動物篇

動物篇

全志動物篇



第九回 肉食獸ノ事

羆熊 ラックウン 一種ノ 獅 ハイア

十族 靈猫族 イ千子ウモン 埃及産

スル 犬 狼 山狗 狐 臭猫

鼠狼 イシチ エルミン 黒貂 コリス スクンク

水獺 カウツ シト、オトル 海豹 海馬

第十回 蟲食獸ノ事

土龍 シラモチ 刺鼠 地鼠

第十一回 前肢ヲ變ヒテ翼トスル胎生

獸ノ事

蝙蝠 ワムピール 巨蝙蝠ノ名

第十二回 四手獸ノ事

チムパンセー 亞非利加 アープロ尾

無キ 猿ノ一種 セビデー

同 上 シミュリデー 同 上 長尾猿 狒



第十三回 鳥類ノ事

鷹ハウク鷹一種ノセクレタリ

一、ブルド上同鷓鴣泉鷓鴣鷓鴣

鷓コッカツ一啄水鳥珠鳥駝

鳥レア亞墨利イニ新和蘭食

火鳥アプテリ一キス駝鳥ノ扶食

老鳥アルガラ扶老鳥一種サクレット

イビス上同赤鶴

目次終

博物全志動物篇卷之二

内田彌一 譯

第七回

有爪族ニシテ齒牙ナキ胎生獸ノ事

通常此部類ノ動物ニ無齒獸ノ名稱ヲ下スト雖  
凡之レ其齒牙ナキニ非ス只門齒ヲ有セサルヨ  
リ其名アルノミ

此部類中其種族ヲ區分シテ二トス即チ食葉族  
及ヒ食肉虫族食肉餅是ナリ



食葉族トハタルジグラダ波足ノ一族タル木狗モック  
 トス其獸ハ往昔其質ヲ詳カニ閱スル者ナク嘗  
 テ高名ナル博士キュービル氏モ亦大ニ之ヲ解誤  
 指示シテ曰ク彼ノ木狗ノ地上ニ歩ムヤ四肢ノ  
 動作自在ナラス且ツ其形狀ノ奇異ナルハ蓋シ  
 造化ノ一戲譎ニ出テシナラント嗚呼是レ理ニ  
 及スルノ説ナラスヤ豈焉ソ一物トシテ造化ノ  
 徒ラニ之ヲ作スヘキノ理アラン蓋シ木狗ノ此  
 ノ如キ體質ヲ有スルモ亦造化ノ恩惠ニ出ツル  
 所ニシテ顧フニ當時知識ノ未夕進マサルト其

獸ノ樹下ニ失墜誤落スルヲ一見セシヨリ竟ニ  
 此浮説ノ起ルニ至リシナランカ抑木狗ノ性夕  
 ルヤ猴猿及ヒ其他ノ樹上樹上ニ産ノ如ク常  
 ニ林木上ニ生育セハ其成體モ亦自ラ條枝ニ垂  
 懸スヘキ骨格ヲ有スルモノナリ故ニ其脚ハ強  
 カアリテ腕ノ長サ脚ニ二倍シ四肢皆内部ニ屈  
 折スレハ行歩ノ緩漫ナルモ亦理ナラスヤ然レ  
 トモ其條枝ニ進退スルヤ頗ル神速ニシテ之ヲ  
 行歩ニ較フレハ更ニ其別族ヲ見ルカ如シ又其  
 齒牙ハ常ニ柔軟ナル萌芽嫩葉等ヲ食トスレバ



第二十一圖

木狗



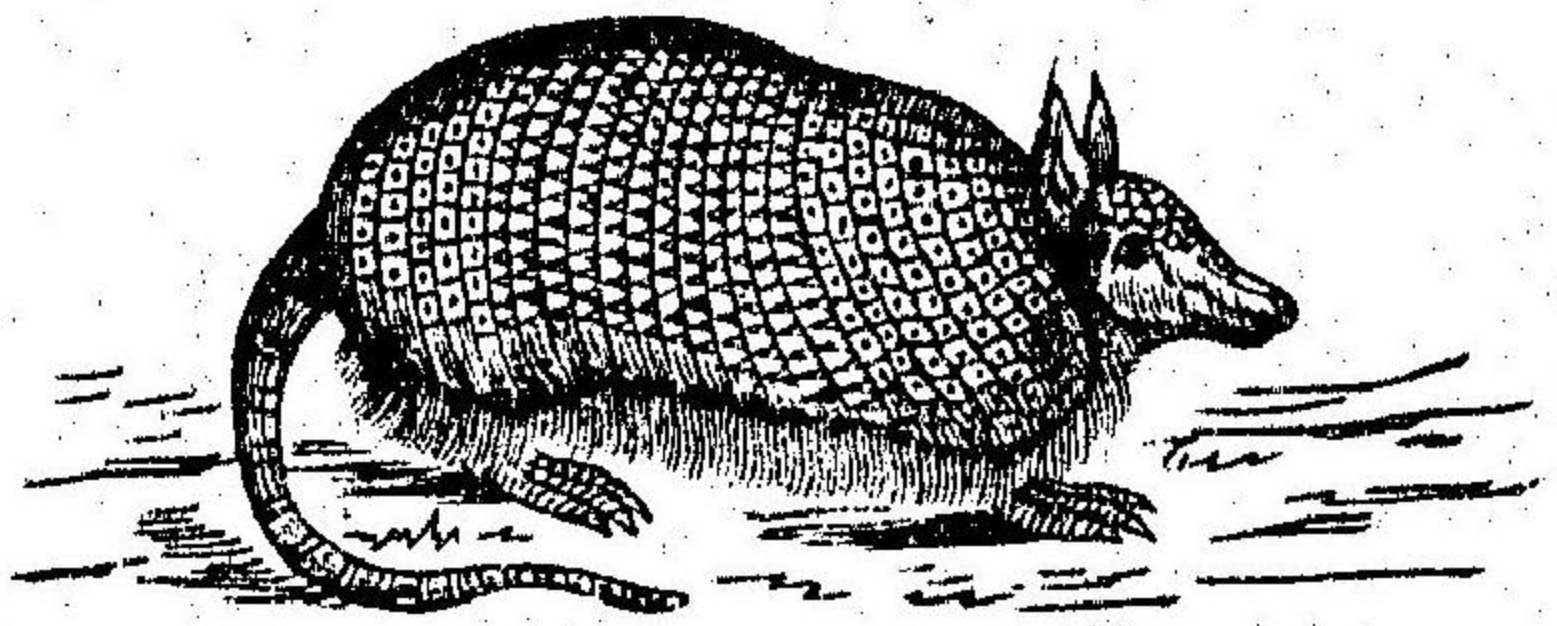
囊ニ分派シテ一種ノ形狀ヲ有スルモノトス

磨嚙ノ動作ヲ要セス尺之ヲ碎齧スルノ用ニ過キサルノミ然レ其胃腑ノ構造ハ之ヲ消化セシメシカ為メ稍齧食獸ノ如ク數

木狗ノ寢宿スルヲ見ルヤ其狀体宛カモ安息セ

第二十二圖

アルマジロ



サルカ如シト雖其蓋シ其身既ニ習性ニシテ之ニ満足ス俎テ其寢宿セシトスルヤ日没ノ後枝條交叉スル樹上ニ坐シテ兩手樹幹ヲ抱キ又枝ニ背ヲ委子胸部ニ首ヲ彎曲シテ茸毛中ニ潛伏ス是レ夜間羽虫ノ妨害



ヲ避ケントスルニ出ツレハナリ  
 無齒獸中肉虫両食ノ種類ヲ分チテ二トス即チ  
 甲。革。獸。及。ヒ。天。真。無。齒。獸。是。ナリ  
 甲。革。獸。トハ第二十二圖ナルアルマ。ジ。ル。口。族ヲ  
 指示ス即チ其アルマジル口ノ成體ハ背ニ角質  
 ノ被甲ヲ冒ムリ其構造ハ圖ノ如ク數條ノ帶ヲ  
 ナシ其獸ノ動作ニ隨テ伸縮スル恰モ鎧冑ノ如  
 シ又其爪ハ強大ニシテ其性地ニ穴スルノ迅速  
 ナル實ニ人目ヲ驚愕セシム是既ニ小説上穿孔  
 獸ノ名稱アル所以ナリ獵夫常ニ之ヲ逐迫シテ

將ニ其尾ヲ捕ヘントスルニ警然地ヲ穿チテ之  
 レニ潜伏遁逃ス若シ迫壓シテ穴居スル能ハザ  
 ルハ頭尾四肢ヲ網縮シ甲革内ニ潛匿シテ其  
 形狀恰モ堅牢ナル球ノ如シ其ノ餌食ハ常ニ羽  
 虫及ヒ菓實等ニ依レハ敢テ利齒ヲ要セス故ニ  
 此等ノ獸類ハ齒アルモ皆門齒ナク臼齒ハ相犬  
 牙シテ相對向ヤズアルマジル口ノ如キモ亦嘗  
 テ利齒ヲ有スルナシト雖モ臼齒相犬牙セハ其  
 餌食皆柔軟質ナレハ自在ニ之ヲ碎嚼スルニ足  
 ルヘシ此獸ノ産タル大古ハ其形狀巨大ニシテ



驚怖スヘキモノアリシト是レ既ニ倫敦醫院ニ  
 於ル博覧場ニ陳列セル諸骨甲ヲ視ルモ之ヲ知  
 ルニ足ルヘシ目今生産スル者ノ如キハ最大ト  
 稱スルモ其身長僅ニ三尺ニ過キサル者多シ但  
 シ此獸ノ産出ハ大小ヲ問ハス皆南亞墨利加ノ  
 地方ニ屬スルモノトス  
 穿山甲ハ天真無齒獸族中ノ一種タレハ一ノ齒  
 牙アルヲ見ス而シテ其別二種アリ一ヲ南亞墨  
 利加産穿山甲ト稱シ一ヲ亞非利加産<sup>パ。ン。ゴ。リ</sup>  
 ン<sup>ノ</sup>穿山甲<sup>或ハ</sup>亞細亞産<sup>マ。ニ。ス。</sup>同上ト稱セリ<sup>諸</sup>テ

第二十三圖  
穿山甲



其南亞墨利加産  
 ナル穿山甲ノ容  
 形ハ全身ニ長キ  
 粗毛ヲ生シ尾毛  
 モ亦茸密ニシテ  
 恰モ流蘇ノ如シ  
 然ルニ<sup>パ。ン。ゴ。リ</sup>  
 シハ全身ニ角質  
 ノ鱗狀アリテ尾  
 ノ形狀恰モ身體



ト一般延長ナルカ如シ而シテ彼ノ穿山甲ハ常  
ニ白蟻ノ巨大ナル巢窟ヲ搜索シテ之ヲ餌食ト  
ス其食ヲ得ルノ方法ハ爪カヲ鼓動シテ其巢傍  
ニ一孔ヲ穿テ圖ノ如キ尖長鼻ヲ之レニ突入シ  
テ長舌ヲ延伸スレハ其ノ粘カアル濃液ニ因リ  
テ數百ノ蟻蟻之ニ屯集スルヲ待テ之ヲ吞喫ス  
又一朝危害アルニ遇ヘハ胸部ニ其首ヲ彎曲縮  
身シ尾毛ヲ散開シテ全身ヲ掩蔽ス試ニ少距離  
ニシテ之ヲ望メハ恰モ田園ノ路傍ニ堆積スル  
乾草ノ一丘ト訝見スルニ至ルヘシ

第八回

咀齧獸ノ事

凡ソ此部類ノ動物ハ其數許多ニシテ胎生獸ハ  
過半皆之ニ屬ス而シテ此獸類ハ其形狀皆小ニ  
レテ稍小豚ノ大ニ均シキカビイバ南亞墨利  
加産ノ獸ヲ其最大ノモノトス且此動物ノ他獸ト其類ヲ  
異ニスルハ即チ齒牙ヲ以テ證スヘシ例令ハ此  
類中ニ屬スル鼠ハ其食スル所一ツノ嫌ヒナク  
殊ニ草食族タレハ樹皮樹根樹幹等ノ如キ堅牢

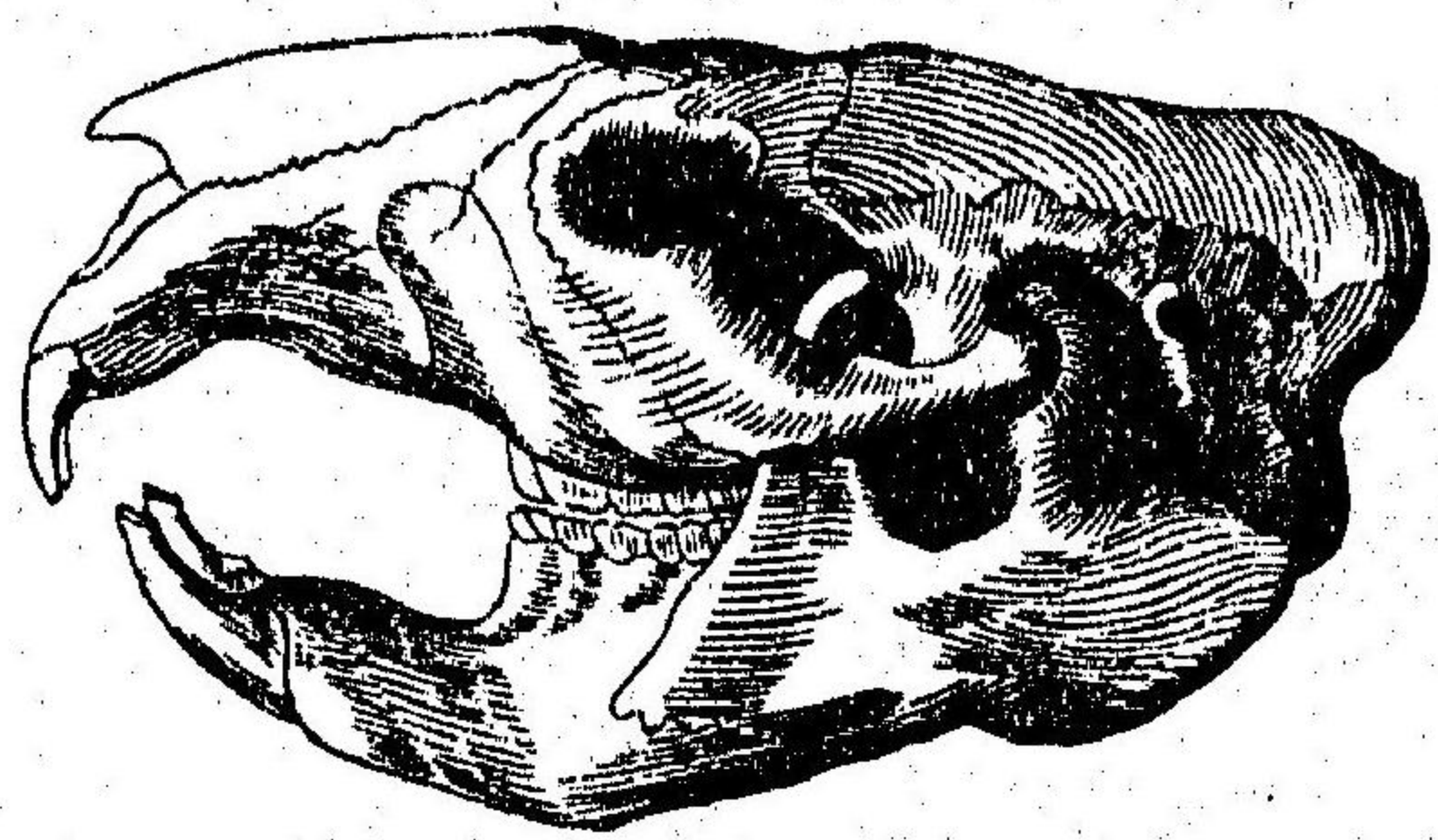


ナル木質ヲ食トシ又栗鼠ノ如キハ極テ胡桃子  
ヲ好ミ其牢殻ヲ咀碎シテ其仁ニ至ルマテ皆悉  
ク之ヲ食セリ加之家鼠及ヒハツカ子鼠ハ庖厨ノ地  
板ニ穴シテ出入自在ナルヲ得ヘシ讀者或ハ疑  
ハン如何ナル利器ヲ有レテ此ノ如クナルト是  
レ他ナシ彼ノ四門強齒ノ作工スルニ係レリト  
ス故ニ其門齒ハ上下各二個ニ分レ彎曲シテ前  
部ニ突出スル恰モ尖銳ナル四鑿ヲ對スルカ如  
シ爰ニ一工人アリ一孔ヲ堅木ニ穿タントセハ  
其鑿ヲ研クニ先ツ粗ナル圓砥石ヲ以テシ次ニ

平滑ナル砥石ヲ以テシテ終始之ヲ研磨スレバ  
特リ海狸ノ樹枝ヲ截嚼シ栗鼠ノ胡桃子ヲ碎嚼  
シ鼠ノ厨板ヲ穿カ如キハ絶ヘス其門齒ヲ使用  
スレバ其利尖ノ更ニ耗滅セサルハ何ソヤ是他  
獸ニ在テハ其門齒ノ頭部ニ珐瑯質ノ包被アレ  
バ此獸類ニ在テハ特リ其門齒ノ裏面皆牙質ヨ  
リ成リテ其外面ニ珐瑯質ノ被包スルアレハ碎  
嚼毎トニ逐次ニ其牙質ヲ消却シテ珐瑯質ノ益  
尖銳ナルニ至レハナリ蓋シ其珐瑯質ノ幾許カ  
堅牢ナルモ之ヲ常用セハ漸々消滅セサルナシ



ト雖其滅スルニ隨ヒ逐次ニ成長シテ常ニ一  
 様ノ狀大ヲ存スルニ至ル又此獸類ニ於ル臼齒  
 ノ構造ハ其性草食ナレハ他獸ニ比スルニ其齒  
 頭平潤ニシテ尖銳ナラサル凸凹アリ其動作ハ  
 上下兩顎前後ニ相磨シテ恰モ鑿ノ二面ヲ摩擦  
 スルニ異ラス但シ此獸類ノ門齒臼齒ノ形狀ハ  
 第二十四圖ニ就テ之ヲ見ルヘシ  
 咀齧獸ハ其種族ヲ區分シテ有鎖骨族及ヒ無鎖  
 骨族ノ二トス其鎖骨トハ一端胸骨ノ上部ニ結  
 合シ他端ハ肩ヲ支ユヘキ堅骨ナリ故ニ海狸栗



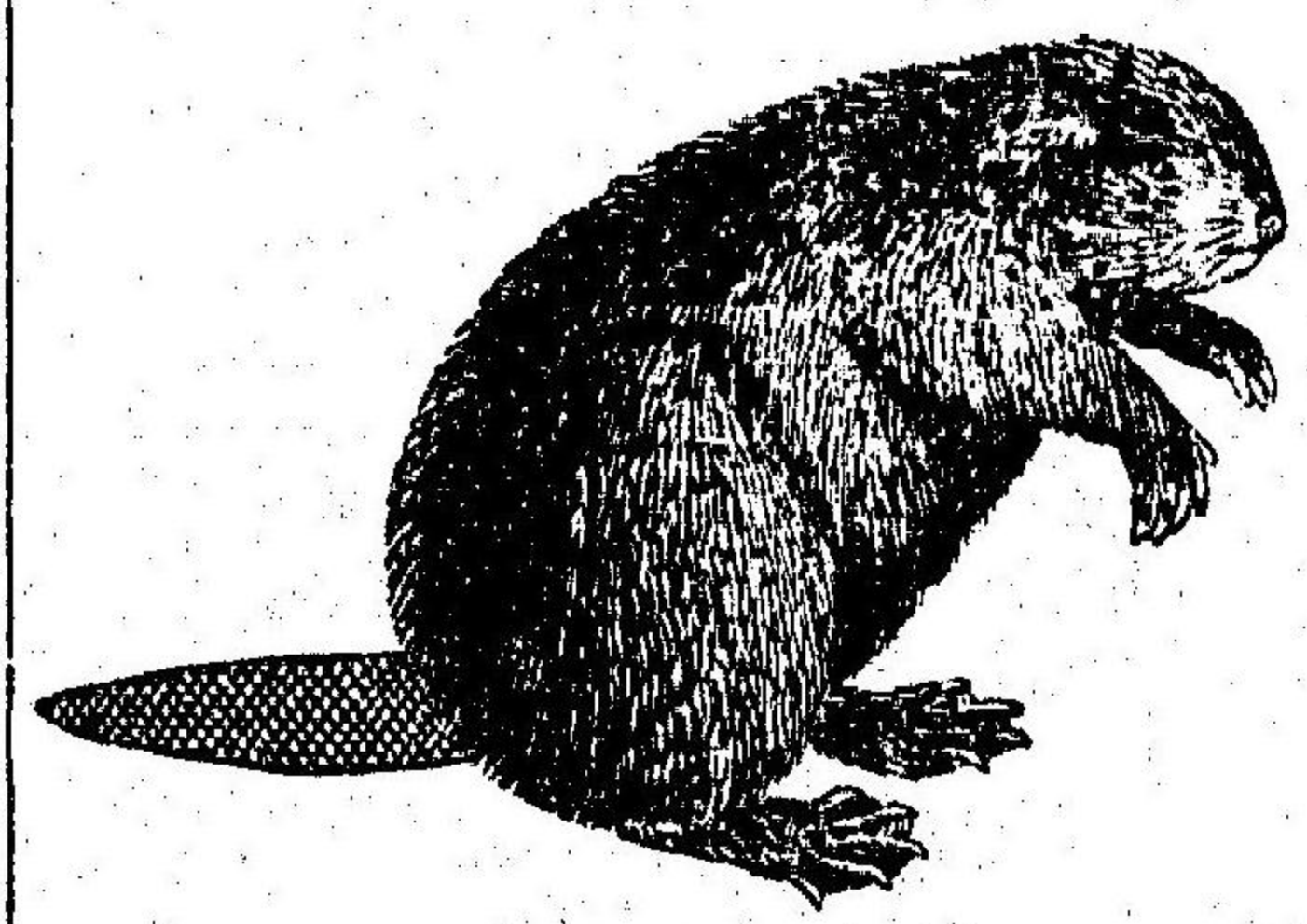
第二十四圖 咀齧獸ノ頭骨

鼠鼠類、箭猪、兔、及ヒ天空  
 鼠等ノ如キ其歩スルヤ  
 前肢或ハ脚ノ用ヲナシ  
 其動作スルヤ或ハ手ノ  
 用ヲナス所ノ碎齧獸ハ  
 即チ皆其鎖骨固有ノ種  
 族タルヲ知ルヘシ  
 有鎖骨族中其尾ノ形狀  
 ニ隨ヒ更ニ之ヲ分チテ  
 左ノ三種トス即チ第廿

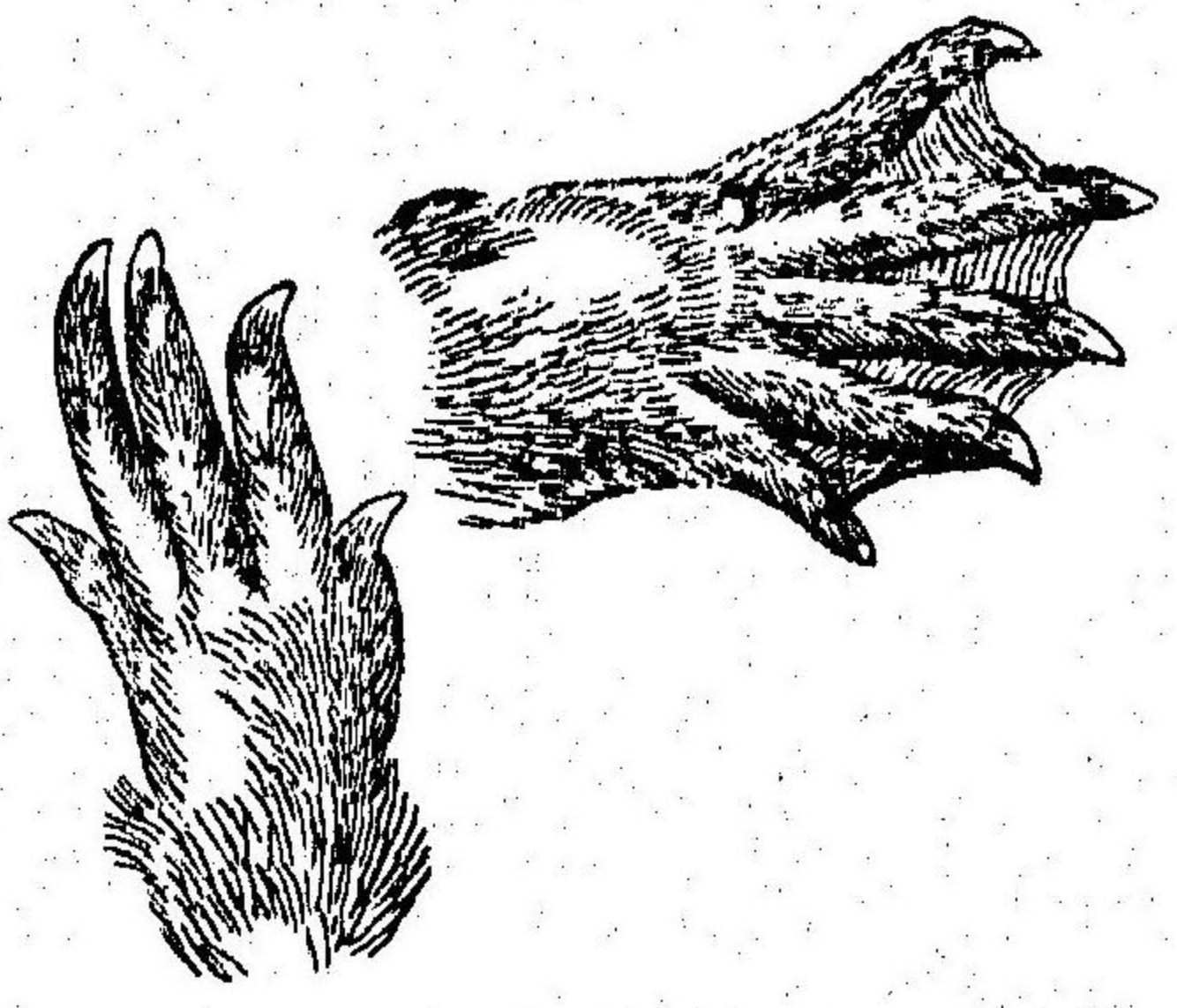


五圖ニ於ル海狸ノ如ク尾ノ形狀平坦ニシテ鱗ヲ有スルモノ第二十八圖ニ於ル栗鼠ノ如ク大

第二十五圖 海狸



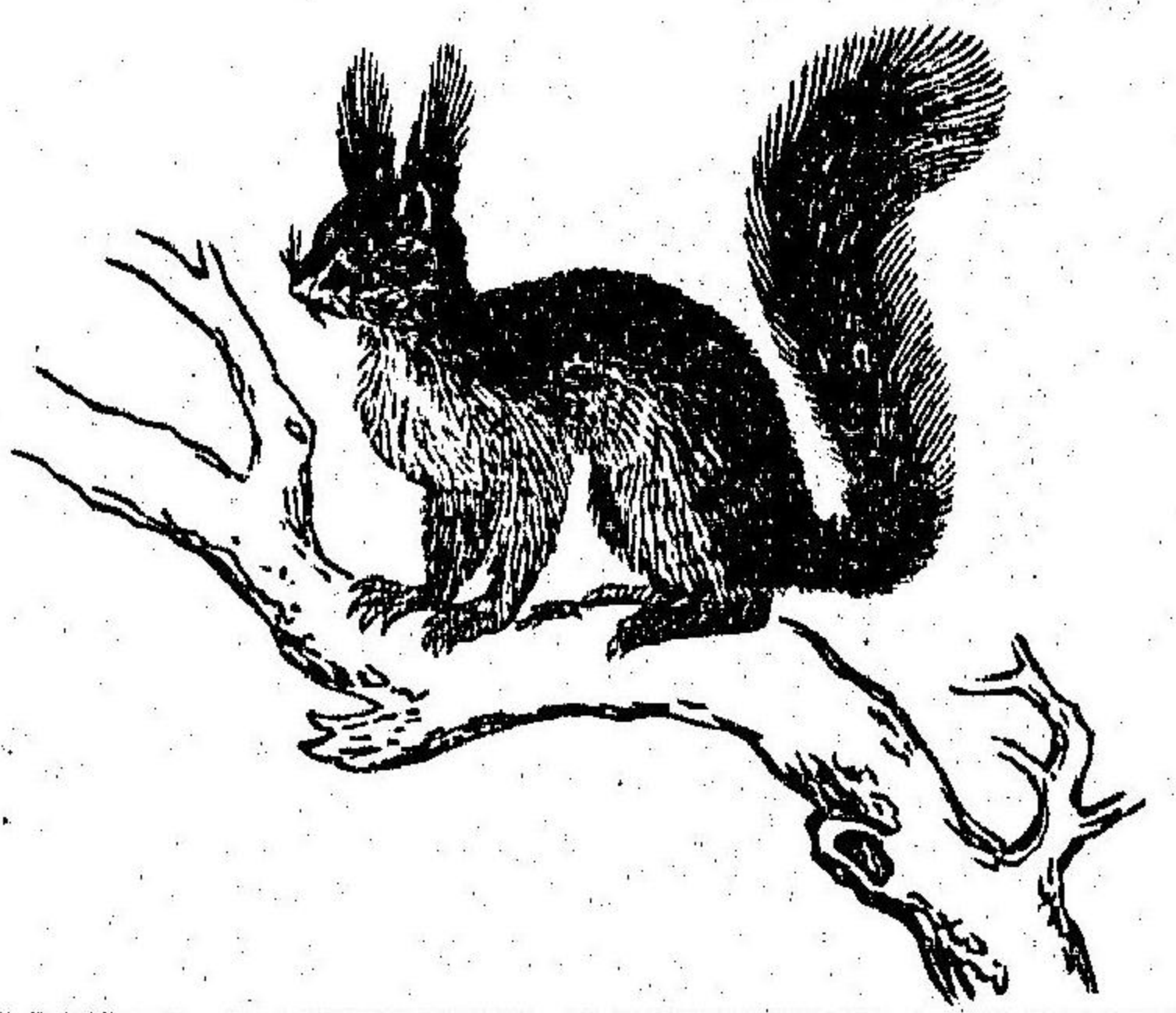
第二十七圖 海狸ノ足



第二十六圖 海狸ノ手

尾ニシテ多毛ナルモノ及ヒ鼠ノ如ク其尾圓長ニシテ細小ナル鱗ヲ有スル

第二十八圖 栗鼠



モノ是レナリ

海狸ノ樹枝ヲ截嚼シテ便宜廣大ナル巢ヲ造營スルニ巧妙ナルハ世人ノ既ニ詳知スル所タリ殊ニ其樹枝ヲ以テ巢ヲ營スルヤ先ツ其枝皮ヲ剝キテ之ヲ巢中ニ貯ヘ以テ食料ノ豫備トスハ

△○ス○テ○ル○  
鼠族ノ栗鼠

ド○ル○モ○ウ○ス○  
鼠族ノ等ノ如



第二十九圖

ハムステル



レニ穀粒ヲ含蓄シテ巢中ニ運輸シ以テ後日ノ豫備トス又同族中ニ其性冬蟄スヘキニ三種ア

キモ其性皆海狸ニ均シケレハ善ク料食ヲ貯蓄シ豫メ之ヲ他日ノ用ニ供セントス

第二十九圖ニ掲載スルハムステルハ兩頬ニ嚙アレハ之

卷三

英蘭堂藏版

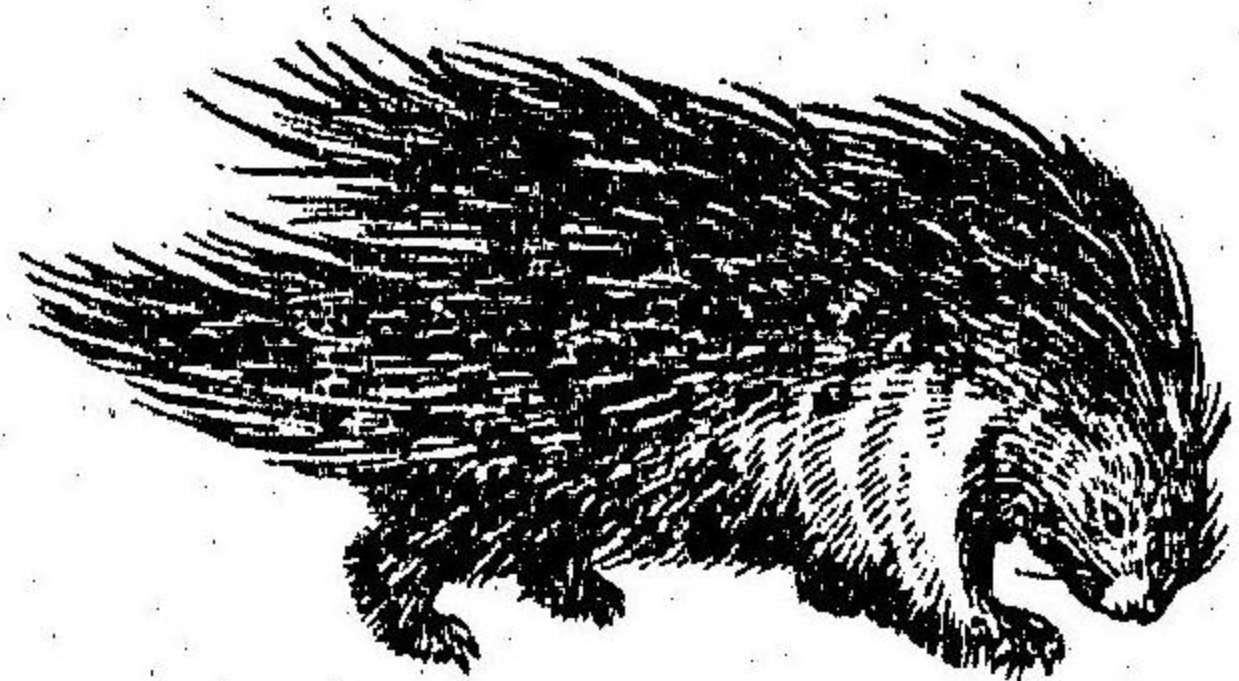
第三十圖

土撥鼠



第三十一圖

箭猪



リ第三十圖ニ掲

示スルアル亞力伯山

及ヒ必里尼斯山

両山ニ産スル土

撥鼠ノ如キハ冬

氣ノ来ルヤ乾草

ヲ貯ヘ之ヲ巢中

ニ疊重シテ臥床

トナシ又其乾草

ヲ纏團シテ毬状

卷二

動物篇

十

英蘭堂藏版



トナシ之ヲ巢門ニ安置シロニ之ヲ含ミテ巢内ニ退安シ而シテ其門ヲ容開シ巢中ヲシテ温和ナラシメ竟ニ其冬蟄スル九月ヨリ翌年四月ニ至ルト云フ

第三十一圖ノ箭猪ハ其容形奇異ナル一動物ニシテ英語ニ之ヲポルクパイント云フ此名稱ハ素ト佛語ノポルクエピンノ刺猪ヨリ起レリト或ハ人アリ呼ンテ之ヲ羽莖猪ト稱スルアレハ蓋シ其稱ノ誤解ニ出ツルヲ免レス是レ他ナシ其ノ質伏仰意ノ如クナル強毛タルニ因レハナリ

而シテ其容形ハ頭上ニ刺毛ヲ戴ク恰モ馬鬣ノ如クニシテ尾モ亦中空粗荒ナル刺毛ヲ生スレハ其行歩スルヤ刺毛相觸レテ歴々音ヲ發ス又其性晝ハ常ニ巢窟ニ潜伏シ夜ハ出テ徘徊シ冬季ニ至レハ全ク巢中ニ伏蟄ス

第九回

肉食獸ノ事

肉食獸ハ胎生獸ノ肉食ニ依テ保生スル部類トシテハ其齒牙モ亦自ラ肉類ヲ咀嚼スハキ構造ヲ

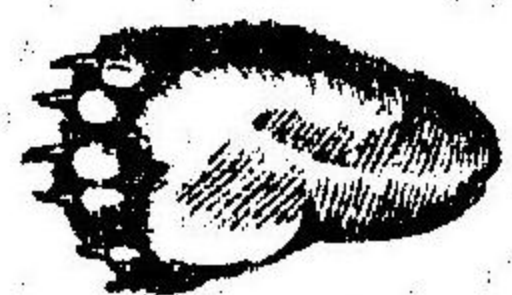


有セリ即チ猫族ノ如キハ肉食獸中最モ生肉ヲ  
 貪養スヘキ猛獸ニシテ餌食ニ於ツヘキ獸類ア  
 ルヲ一見セハ直ニ捉攫シテ之ヲ食フ其犬齒ハ  
 四個尖銳ニシテ其長キ鉤ノ如ク門齒モ亦銳利  
 ニシテ上下兩顎各六個アリ其臼齒ハ側面平滑  
 ナレヒ齒上凹凸粗銳ニシテ鋸齒ノ如シ故ニ之  
 ヲ利用シテ肉ヲ截嚼スル恰モ大剪刀ノ物ヲ斷  
 ツカ如シ  
 肉食獸中其種族ヲ分ツテ四トス即チ足踏行歩  
 族。足趾行歩族。水住族。及ヒ蟲食族是レナリ

熊族ハ足踏行歩ノ肉食獸ナレハ其歩スルヤ足  
 踏ノ全部ヲ地上ニ踏着シ時アリテハ後肢ニ委

第三十三圖

熊ノ後肢踏



第三十二圖

熊ノ前肢踏

子テ能ク直立ス故ニ之  
 ヲ教育スレハ後肢能ク  
 踏ニ前肢能ク舞踊ス然  
 レハ此等ノ事ハ造化ノ  
 意ニ反スレハ決テ人ノ  
 好ムヘキニ非トス是  
 レ熊ノ敵ニ迫ルヤ乃チ  
 直立鼓爪シテ前肢ヲ掉



第三十四圖 北極熊

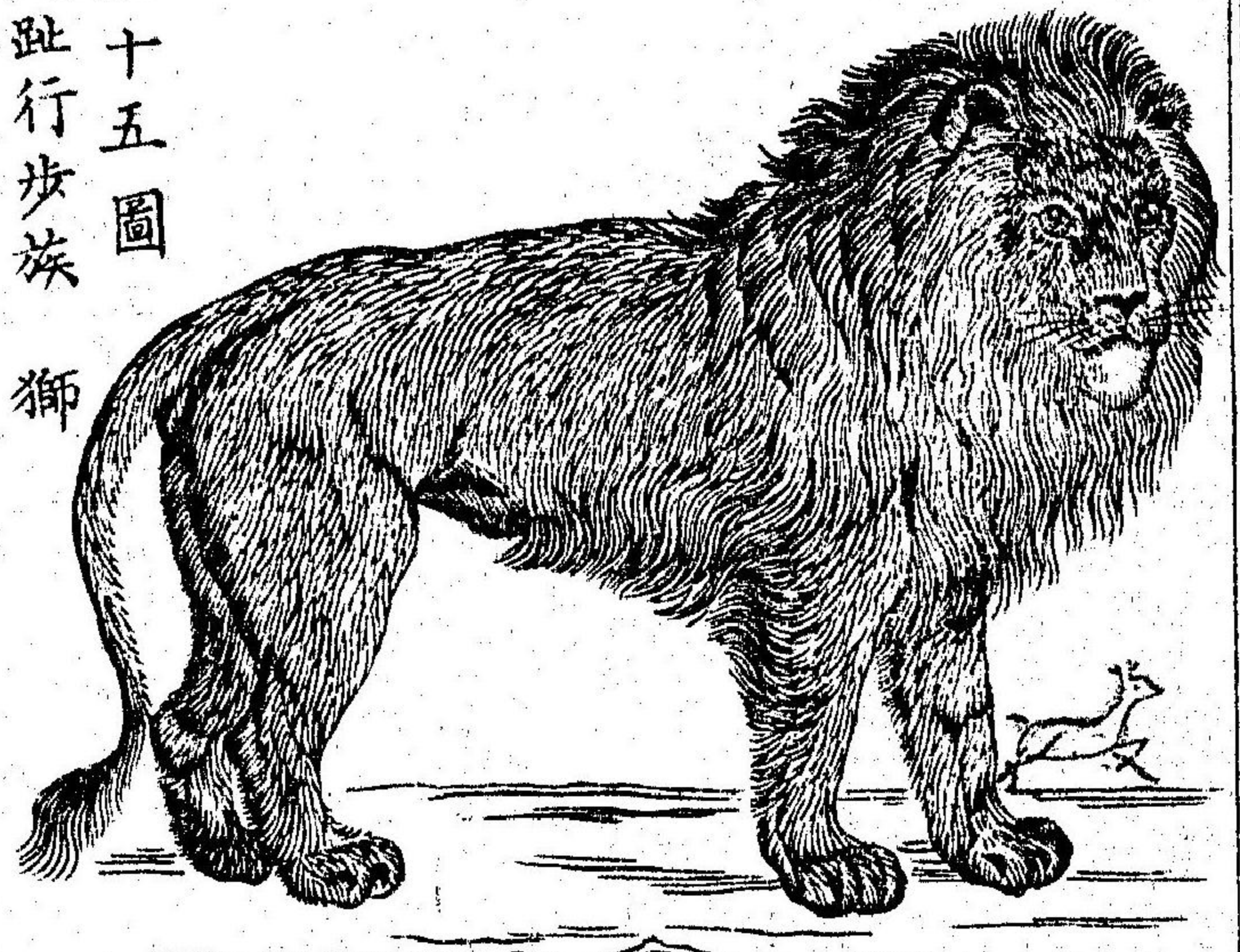


已既ニ之レニ接  
 スレハ忽チ捉抱  
 シテ之ヲ餌食セ  
 ハ何ソ此等ノ位  
 置ヲ玩弄シテ人  
 ノ遊戯トナスノ  
 理アラシヤ  
 第三十二圖及ヒ  
 第三十三圖ハ即  
 チ熊蹠ニシテ左

ニ揭示スル獅ト之レヲ比較セハ明カニ其形狀  
 ノ異ナルヲ知ルヘシ第三十四圖ハ北極ノ熊  
 ニシテ嚴寒恒凍ノ地方ニ産スル一ツノ熊族ナ  
 ルヲ知ルヘシ而シテ此熊ノ性タル能ク水中ニ  
 遊泳シ雪中ニ潜伏ス又恒寒ノ季ニ到ルヤ多ク  
 ハ大ナル層氷ノ洞穴ニ居住ス  
 熊族ハ肉食獸ノ部類タレニ獨リ肉食ニ依テ生  
 ヲ存スルニ非ス好テ野菜ヲ貪食ス殊ニ北極熊  
 ノ如キハ野生ノ桑子、楊梅子及ヒ海草等ヲ敢食  
 ス然レモ一朝餌食ニ充ツヘキ畜類ニ遇ヘハ跳



テ之ヲ捕獲貪食ス故ニ北亞墨利加ニ産スル巨  
 羆ハ屢、ビソシ一種ノヲ搏シテ之ヲ緊殺シ北極羆  
 ハ喜テ魚類鯨類等ヲ貪食ス熊族ノ雜食タル此  
 ノ如クナレハ其白齒モ亦食ヲ截切セスシテ碎  
 嚼スヘキ構造ヲ有スルモノナリ  
 多クシモ一種ノ熊族ナレバ其形狀小ニシテ  
 稍長尾ナリ常ニ能ク巨樹ニ攀躋ス其性白晝ハ  
 伏シテ夜間海濱河邊ニ逍遙ス其ノ以テ奇トス  
 ヘキハ母子ニ餌ヲ得レハ必ス之ヲ水ニ浸ス一  
 回セサレハ食ハス之カ為メニ好テ牡蠣ヲ貪食



第三十五圖  
 足趾行歩族 獅

ス其他バツチル名獸  
 及ヒグ、ム、ツ、ト、ン  
 上モ亦同族ノ肉  
 食獸中ニ屬スル  
 モノト知ルヘシ  
 足趾行歩族ヲ分  
 ツテ左ノ數種ト  
 ス即チ猫族、ヘイ  
 エナ族、靈猫族、犬  
 族、臭猫族、黃鼠族

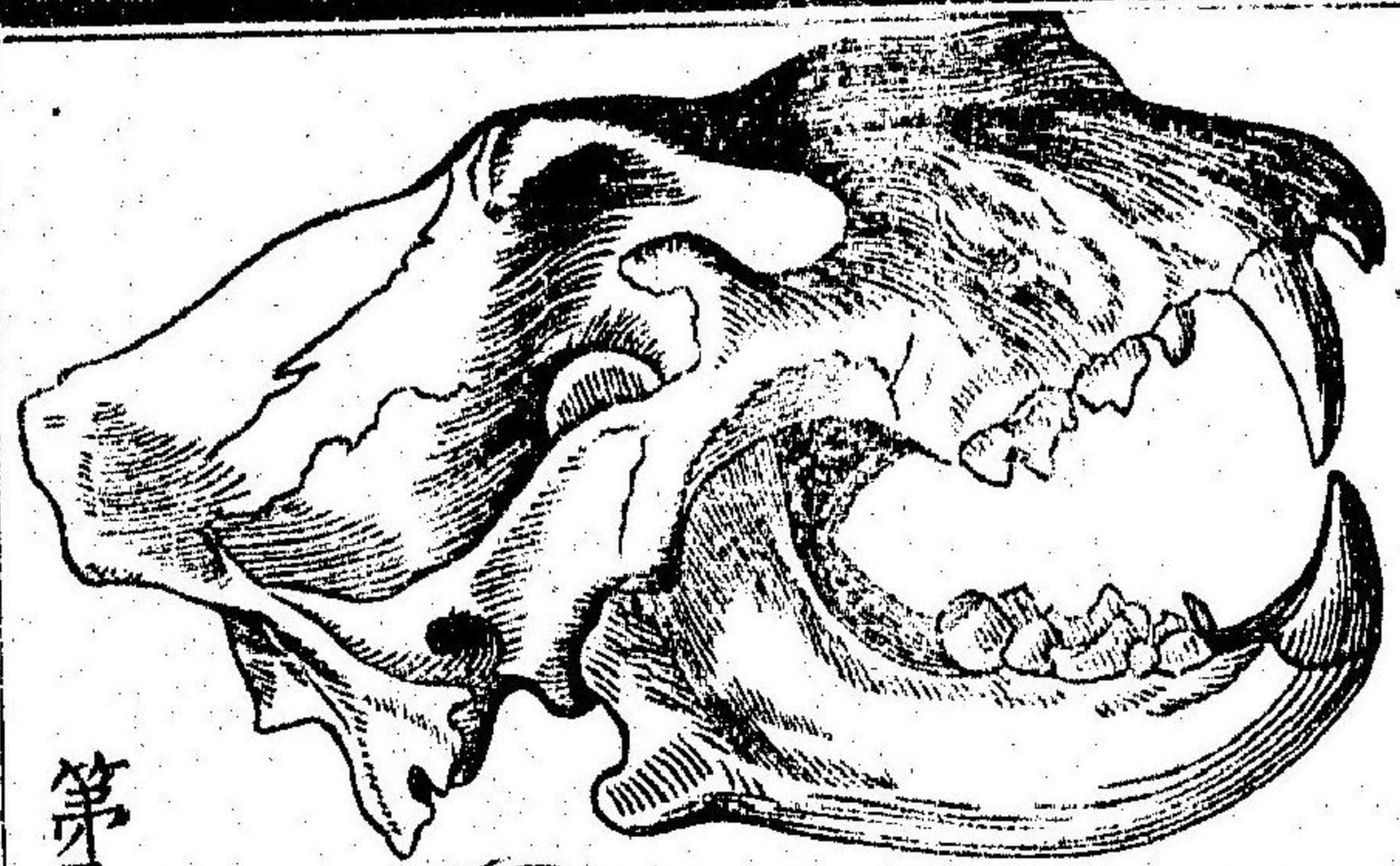


及ヒ水獺族是レナリ  
 猫族中其最大猛獭ナルモノハ第三十五圖ニ掲  
 載スル獅ニシテ今古各國皆之ヲ獸王ト稱セリ  
 而シテ此族ノ爪ハ其伸縮皆意ノ如クナレハ家  
 猫タモ亦敢テ其四肢ニ觸ル、勿レ平時ハ其爪  
 ヲ潛メテ其柔ナル剪絨ヲ撫スルカ如シト雖氏  
 戲ニ之ヲ玩弄セハ直ニ爪ヲ奮ヒテ恰モ鼠ヲ驅  
 逐スルノ勢アレハナリ又猫族ハ足蹠ニ護謨様  
 ノ黑色彈カアル胞肉ヲ有レ歩ムモ寂トシテ其  
 音ヲ聞カス其舌上ニハ滿面反向シタル小刺ヲ

生シテ恰モ擦薑器ニ觸ル、カ如シ是ヲ以テ生  
 肉ヲ食フモ其動作ニ因リテ能ク肉ト骨トヲ分  
 離ス又同族ノ骨格ハ極テ強堅ナレ氏皆彈カラ  
 多有スルヨリ高キニ攀チテ跳下スルモ敢テ其  
 痛ヲ知ルヲナシ是レ既ニ其食スヘキ小獸ヲ一  
 見セハ自在ニ籬ヲ穿チ林ヲ踰ヘ諸ノ狹隘ヲ潛  
 越シテ之ヲ追逐スヘキ所以ナラスヤ其眼球ノ  
 形狀視カノ如キハ前卷ニ記載セハ爰ニ之ヲ略  
 ス但シ猫族ノ稱アルモノハ大略左ノ如シ即チ  
 獅、虎、パンゼル、  
 亞細亞及ヒ亞非利加  
 種、豹、ジャグアル



第三十六圖  
獅ノ頭骨



第三十八圖



獅爪ノ伸縮圖

第三十七圖

亞墨利加ノ虎大野猫家  
貓等是レナリ  
第三十六圖ニ掲  
クルモノハ獅ノ  
頭骨ニシテ肉食  
獸タル齒牙ノ結  
構ヲ示シ第三十  
七圖及ヒ第三十  
八圖ハ獅爪ノ伸  
縮セル形ヲ示ス

讀者浪視スルコト勿レ

ヘイエナ族モ各足四趾ヲ有スレバ其爪ノ動作  
伸縮ヤス好シテ死肉ヲ食ス其性ハ白晝穴居シ  
深夜山間ヲ逍遙シテ餌食ヲ求メ得レハ之ヲ貪  
食ス

靈猫族ハ常ニ亞非利加ニ産スレバ亦和蘭ニモ  
儘之ヲ産ヤリ故ニ和蘭人ハ此獸ヲ獵リテ香料  
ヲ收メ之ヲ商品ノ一ニ供シ以テ其國ヲ利スル  
コト歎カラスト云フ但シ此獸ノ形狀ハ猫族ナラ  
ス犬族ナラス一種其中間ニ屬スルヲ知ルヘシ



イ○チ○子○ウ○モ○ン○埃及ニ産スル獸名ハ即チ靈猫族ノ一種ニシテ埃及人ハ甚タ之ヲ尊重シ國中ニ禁シテ之ヲ捕殺セサラシム是レ其性水ヲ好ミ河邊ニ逍遙シテ砂中ニ鱈魚ノ卵ヲ搜索シ得レハ好シテ之ヲ食スル所以ナリ又埃及人ハ之ヲ蓄飼シテ黠鼠及ヒ惡虫等ノ巢窟ヲ驅除セシム印度ノ如キモ亦其一小種類ヲ産セハ之ヲ馴柔セシメテ多ク其用ニ供スルト云フ

犬ハ其性忠直有義ノ獸ニシテ家畜中最モ善ク人ニ親暱ス故ニ世界各國人アレハ必ス犬アリ

遠隔ノ地ニ羈旅スル客ハ之ヲ携ヘテ一友トナスヘシ爰ニ一乞丐ノ盲者ニ畜養セララル、犬アリ食ヲ其主ニ抑ク僅ニ麵包ノ剩片或ハ殘肉ノ餘屑殘骨等ノ如シト雖モ常ニ其主ニ先導シ途上ニ友犬ノ嬉戯スルアルモ敢テ之ヲ顧ス其主ヲ前後看護スルノ情義アル毫モ美味ヲ投シテ養フ者ト其異アルヲ見ス是レ人ヲ守衛セシムル天理ナル所以ナカ又其脚ノ形狀ハ前肢ニ五趾ヲ有シ後肢ニ四趾ヲ具スルト雖モ其爪ノ舉動ハ伸縮自在ナル能ハサルヲ知ルヘシ



狼モ亦犬ノ一種タレ其習性ト心情トニ至リ  
テハ全ク之レト相反セリ抑、狼ノ性タル事物ニ  
怯怖スレ、凡然カモ殘虐ニシテ頗ル殘忍ナリ每  
ニ羣ヲ結ンテ牧羊、家畜ヲ捉ヘ一朝飢餓ニ迫レ  
ハ奮勇鼓爪シテ巨獸ニ抗シ以テ之ヲ僵スニ至  
ル嘗テ一千八百二十二年魯西亞政府ノ布告上  
リボニヤ延二百五十里一地方ニ於テ狼ノ災害  
ニ罹リシ畜類ノ員數ヲ見ルニ一年間ニシテ馬  
一千八百四十一匹、家畜一千八百零七匹、犢七百  
八十三匹、羊一萬五千一百八十二匹、羊仔七百二

十六匹、山羊二千五百四十五匹、山羊仔一百八十  
三匹、豕四千一百九十四匹、豚三百十二匹、家犬七百  
零三匹、鷲六百七十三匹、家禽一千二百四十三匹  
ナリ然ルニ我カ英蘭ノ如キハ幸ニシテ一千二  
百八十一年來漸ク此惡獸ノ蹤跡盡クルニ至リ  
シカ蘇格蘭ハ一千五百七十七年ノ頃猶ホ其災  
害ニ罹ル下甚タ多シ殊ニ愛耳蘭ノ如キハ一千  
七百年ノ初代ニ至ルモ猶ホ此災害ヲ免カル、  
蘇ハサリシト云ヘリ  
山狗ハ其習性形狀共ニ甚タ狼狐ニ類似スル所



アリ常ニ小獸ヲ捕ヘ好ンテ腐肉、殘肉等ヲ食セ  
 リ  
 狐ハ尾大ニシテ鼻端細ク其形狀犬狼ト異ナリ  
 其性頗ル奸猾ヲ極ム其輕骨彈カヲ有スルニ至  
 リテハ其質大ニ貓類ニ等シ其瞳孔ノ如キモ亦  
 白晝ハ楕圓ニシテ直立ス然レモ當今英國ニ於  
 テハ之ヲ見ルト甚ク稀ナリ獵夫猶ホ之ヲ搜索  
 捕獲セハ竟ニ其蹤ヲ絶ツニ至ルヘシ  
 臭。貓。族ハ肉食獸中足趾行歩ニ屬スルモノニメ  
 其形狀ハ身軀長延ナレモ四肢短カシ試ニ此部

類ヲ算フレハ尋常臭貓ノ外ハルビト鼠狼ノ、第  
 三十九圖ナル鼠狼、エ。ル。ミ。ン、イタチ黃鼠及ヒス。ク。ン。ク。  
名獸ノ等皆是レナリ此獸類ノ性タル能ク鼠、ハツカ子鼠  
 及ヒ小鳥ノ如キ小動物ヲ捕ヘ又多ク鳥類ノ卵  
 子ヲ奪テ之ヲ餌食ス但レ其エルミンナルモノ  
 ハ夏間ハ毛色褐色ニシテ冬間ハ純白ニ變シ尾  
 端ハ常ニ黒色ヲ存セリ而シテ歐洲諸國ニ多産  
 スト雖モ其毛皮ノ美ナルモノハルカエー那威、瑞典及ヒ  
 魯西亞ノ産ニ如カスト云フ  
 エ。ル。ミ。ンノ白毛皮ハ英國女王陛下及ヒ其王族



ノ袍衣冠冕等ヲ製作シ又貴族ノ官服ニハエ  
 ミン皮ニ裝飾スルニアス亞斯達干羊仔ノ黑毛皮ヲ  
 以テ斑紋ヲ附シ其模様ニ依リテ其位階ヲ判明  
 ス  
 エルミン尾毛ノ真黒皮ハ毎ニ貴族婦人ノ使用  
 スヘキ温手套、風領等ノ製作ニ供スレレ當今之  
 ヲ使用スルハ素ヨリ貴人ニ止マラス貴賤貧富  
 ノ別ナク民間隨意ニ之ヲ用ユ然レレ第三世華  
 義都王ノ時代ニ在テハ王族ノ外此毛皮ヲ用フ  
 ルハ嚴ニ之ヲ禁止セリ但シ每歲他國ヨリ英國

第四十四圖 住水族 海豹



第四十二圖 刺鼠

第三十圖 鼠狼

ニ此毛皮ヲ輸  
 入セシムル其  
 多寡ヲ算スル  
 ニ大約十萬枚  
 ニ下ルヲ稀ナ  
 リト云フ  
 黒貂皮モ亦甚  
 タ貴重スヘキ  
 一獸皮ニシテ  
 其形狀小ナリ

動物篇 二十



ト雖此一枚ノ價值大約三磅ヨリ五磅ニ至レリ  
 是レ之ヲ獵獲スルニ危險ヲ凌キ其勞力甚タ歎  
 ナカラサルニ由レハナリ、抑此獸ヲ多産スルハ  
 亞伯利ノ荒野ニシテ魯西亞人ハ大ニ此毛皮ノ  
 功用ヲ貴重シ專ラ國費ニ供スルカ為メ毎歲他  
 國ニ輸出スルノ數ハ凡ソ二萬五千枚ニ過キス  
 故ニ其中英國ニ輸入スルハ僅ニ二千枚ヨリ三  
 千枚ニ越ルヲナシ余嘗テ知ル倫敦府尹アルデ  
 ルメン及ヒセリッフス兩氏ノ袍衣ニ裏スルニ此  
 黑貂皮ヲ以テ製セルモノアリ是レ蓋シ一奇品

ニシテ其價極メテ貴重ナルヘキヲ知ル通常此  
 毛皮ヲ費用スルハ獨リ畫工ノ刷子ヲ製スルノ  
 用ニ供シテ大ニ之ヲ尊重ス  
 ス○ク○ン○ク○ハ一名 メ○ヒ○トノ發臭獸ト稱シ其臭氣  
 ヲ發スル甚タシキモノニシテ其地遠隔ニ在ル  
 モ為メニ必ス之ヲ知ルヘシ凡ソ臭猫族タル皆  
 多クノ臭氣ヲ發スト雖此獨リスクンクノ甚タ  
 シキカ如キハ恐ラク他ニ此比類アルヲ見サル  
 ヘシ  
 水○類ハ多ク水中ニ住ニ其潛伏游泳スル頗ル神



速ニシテ魚類ヲ常食セハ之ヲ肉食獸中住水族  
 ノ一種トス漁夫ハ之ヲ馴養シテ鱗魚ヲ驅逐セ  
 シメ以テ漁獵ノ一助ト為スト云フ而シテ當今  
 多ク之ヲ産スルハ不列顛郡島ニシテ每歲其毛  
 皮ヲ市ニ送輸スル少ナクモ五百枚ニ下ルナ  
 シ然ルニ亞墨利加ヨリ每歲英國ニ之ヲ輸入ス  
 ル殆ト二萬枚ナルニ及ヘハ費用品ヲ除キテ凡  
 ソ一萬六千餘枚ハ更ニ之ヲ外國ニ輸出スルニ  
 至ルヘシ  
 シ。ハ。ト。ル。ハ。稍。海。豹。ニ。類。似。シ。テ。常。ニ。水。中。ニ。居

住シ多ク白冷海峽及ヒ其近海ニ産出シテ屢其  
 海水ニ突出スル礁石上ニ羣集ス然レモ之ヲ捕  
 獲スル極メテ難キニ因リ其毛皮モ亦極メテ廉  
 ナラス殊ニ其真黒色ニシテ毛頭ノ發光銀色ヲ  
 帶フルモノ、如キハ一枚ニシテ凡ソ四十磅ノ  
 價値アリト故ニ此毛皮ヲ以テ製セル温手套ハ  
 少ナクモ其値二十五ゴイニ一ニ英國金貨幣ノ名  
 我ハ凡ニ下ラサルヘシ  
 肉食獸中住族ノモノハ常ニ水中ニ居住スレ  
 氏時アリテ其生子ヲ養ハンカ為メニ海濱ニ來



テ背ヲ日光ニ晒スヲアリ但シ真ノ水住族ト稱スルモノハ海豹及ヒ海馬ノニニ止マルモノトス  
海豹ハ第四十圖ニ其成體骨格ヲ示スカ如ク其形狀正シク四肢獸ノ一族タルハ其肩骨腕骨脚骨手指骨足趾骨等ノ備具スルヲ見テモ其證ト為スニ足レリ而シテ其前肢ハ鯨ノ如ク皮肉ノ包被アレバ鯨ハ獨リ前肢ヲ有シテ後肢ヲ有セス海豹ハ後方ニ屈折シタル後肢ヲ具有ス即チ掲圖ニ由リテ之ヲ參觀セヨ

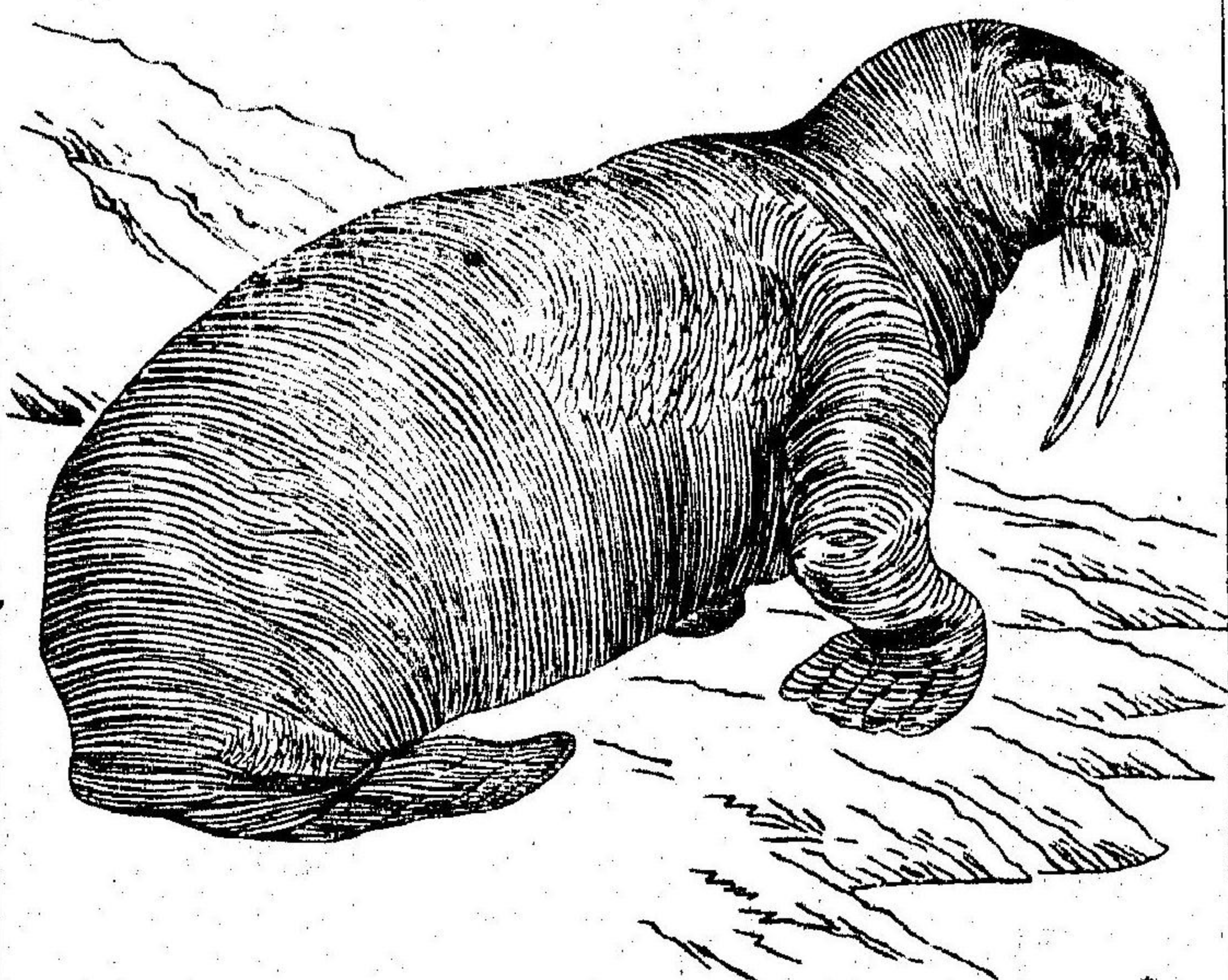
海豹ハ其容貌温和ニシテ狗ノ如ク其性モ亦狗ニ等シクシテ頗ル柔良ナルモノナリ而シテ北極海ノ一貴産タレハ哥里蘭及ヒ拉巴蘭ノ土民皆競テ之ヲ捕獲ス是レ其肉ハ食料ニ供シ其脂ハ燈油ニ供シ其毛皮ハ衣服トナシ靴トナシ其纖維ハ糸紐トナシ其腸ハ以テ諸物ニ供用スヘキニ由レハナリ輒近英國ニ於テモ此毛皮ヲ以テ婦人ノ短表衣ヲ製スルノ流風大ニ行ハレシヨリ之ヲ輸入スルノ每歲凡ソ六十萬枚ニ至ルト云フ但シ海豹ノ齒牙ハ潤滑ナル餌物ヲ常食



セハ自然其先端尖銳ニシテ恰モ鋸齒ニ觸ル、カ如シ

第四十一圖ニ掲クル海馬ハ世俗之ヲ名稱シテ海牛ト云ヒ世人亦能ク之ヲ知ルト雖此名稱ハ甚夕適セサルニ似タリ且ツ其習性ハ殆ト海豹ニ同シト雖其形狀甚夕巨大ニシテ殆ト陸地ノ獸ニ類似セリ唯其齒牙ニ至リテハ陸獸ト大ニ其形狀ヲ異ニシ象ノ如ク上顎ヨリ二牙ヲ發シ逐次ニ長成シテ竟ニ二尺有餘ニ至ル其牙ノ方向ハ象牙ノ發生ニ反シ上顎ヨリ出テ、下

第十四圖 水住族海馬



方ニ向フ是其功用自カラニアリテ一ハ北極巖ノ侵襲ヲ防護シ一ハ身體運轉ノ便ヲ利スルニアリ試ニ海馬ノ海礁ニ攀躋スルヲ見ルニ其身軀牛ヨリ大ナリト雖此



其牙ヲ岩石ニ懸ケ其助ケニ依テ竟ニ岩上ニ攀  
チ其牙ヲ動作シテ許多ノ海草ヲ集採シ以テ之  
ヲ食フ但シ海馬ハ其牙ト油ノ便用數多ナルヲ  
以テ世上皆之ヲ賞翫ス

第十回

蟲食獸ノ事

胎生獸中昆蟲ヲ餌食トシテ生育スル一部類ア  
リ其全體ノ構造モ亦隨テ他獸ト其種質ヲ異ニ  
ス而レテ此獸類ハ獨リ昆蟲ノ餌食ヲ待テ生活

セハ其日夜貪食スル蟲數ハ果シテ幾許カ之ヲ  
量知スル能ハサルヘシ然レモ造化ノ作用ニ因  
テ嘗テ其食ニ乏シカラス若シ是等ノ諸獸ノ存  
スルナクンハ其蟲類日ニ繁殖シテ竟ニ人生ヲ  
モ煩惱セシムルニ至ラン嗚呼造化ノ妙惠大ナ  
ル哉

蟲食獸中其族ヲ分チテ三トス即チ土龍族刺鼠

族及ヒ地鼠族是レナリ

土龍ハ深々土中ニ穴居シテ地上ニ出ツルト甚  
タ稀ナリ其形狀ハ四肢短々遲歩ニシテ且ツ魯



鈍ナルニ似タリ其四肢ノ骨格ハ皆手ノ動作ヲ  
ナシ前肢ハ殊ニ短大ニシテ多力ノ爪アリ其性  
甚タ温良ナルカ如シト雖モ土中ニ在テ餌ヲ爭  
フハ頗ル暴戾ニシテ互ニ齒カヲ振ヒ終ニ死ヲ  
決スルニ至テ止ムト云フ  
土龍ノ眼球ハ甚タ狭少ニシテ且ツ日光ノ反射  
ニ堪ヘサレモ其鼻ノ感覺ハ頗ル鋭敏ナリトス  
第四十二圖ニ掲ケル刺鼠ハ人皆ナ明知スル獸  
ニシテ全身ニ被纏スル刺毛ハ其尖頭常ニ後方  
ニ倒麗スト雖モ表皮ノ動作ニ因リ爪チ之ヲ直

立スル意ノ如クニシテ之ヲ突起スレハ其形狀  
恰モ隊伍ノ銃鎗ヲ駢列スルカ如シ故ニ危險ニ  
遇ヘハ之ヲ突立シテ軀ヲ縮ムル其形恰モ栗毬  
ヲ見ルカ如シ其餌食ハ常ニ昆蟲、蛙兒、土蝸等ヲ  
捉ヘ殊ニ好シテコックローチ名虫ヲ驅逐スルヨ  
リ倫敦ニ於テハ屢之ヲ庖厨ニ見レモ其功用ア  
ルヲ愛シテ敢テ之ヲ捕フルナシ故ニ白日常ニ  
庖厨若クハ竈下ニ潛伏シ夜間ハ出テ、甲蟲ヲ  
飽食ス然ルニ其甲蟲ノ外皮堅硬ニシテ消化セ  
サレハ為メニ其胃ヲ損害シテ屢死ニ至ルモノ



アルヲ見ルヘシ  
地鼠ハ其形狀小ニシテ稍、鼯鼠ノ如ク猫兎能ク  
之ヲ捉フレ、其全體麝香ノ微薰アレハ敢テ之  
ヲ食ハス鼠狼、鷹、梟ノ如キハ好シテ之ヲ攫食ス  
地鼠ノ鼻ハ其形チ細長ニシテ其運廻スル恰モ  
象ノ鼻ニ於ケルカ如シ故ニ一名之ヲ象鼠ト稱  
セリ又此一種族中デスマント名クルモノハ其  
鼻端稍、尚延長ニシテ其形狀甚タ奇觀ナリ  
地鼠ノ種族ハ多ク水邊ヲ好ミデスマンハ河邊  
ニ穴居シテ常ニ水邊ニ逍遙ス但シ其穴居ノ營

作タル必ス一門ヲ水外ニ設ケ一門ヲ水中ニ達  
ス是レ危険アルヲ見レハ避ケテ水中ニ遁レン  
トスルノ豫備ニ出ツルナルヘシ

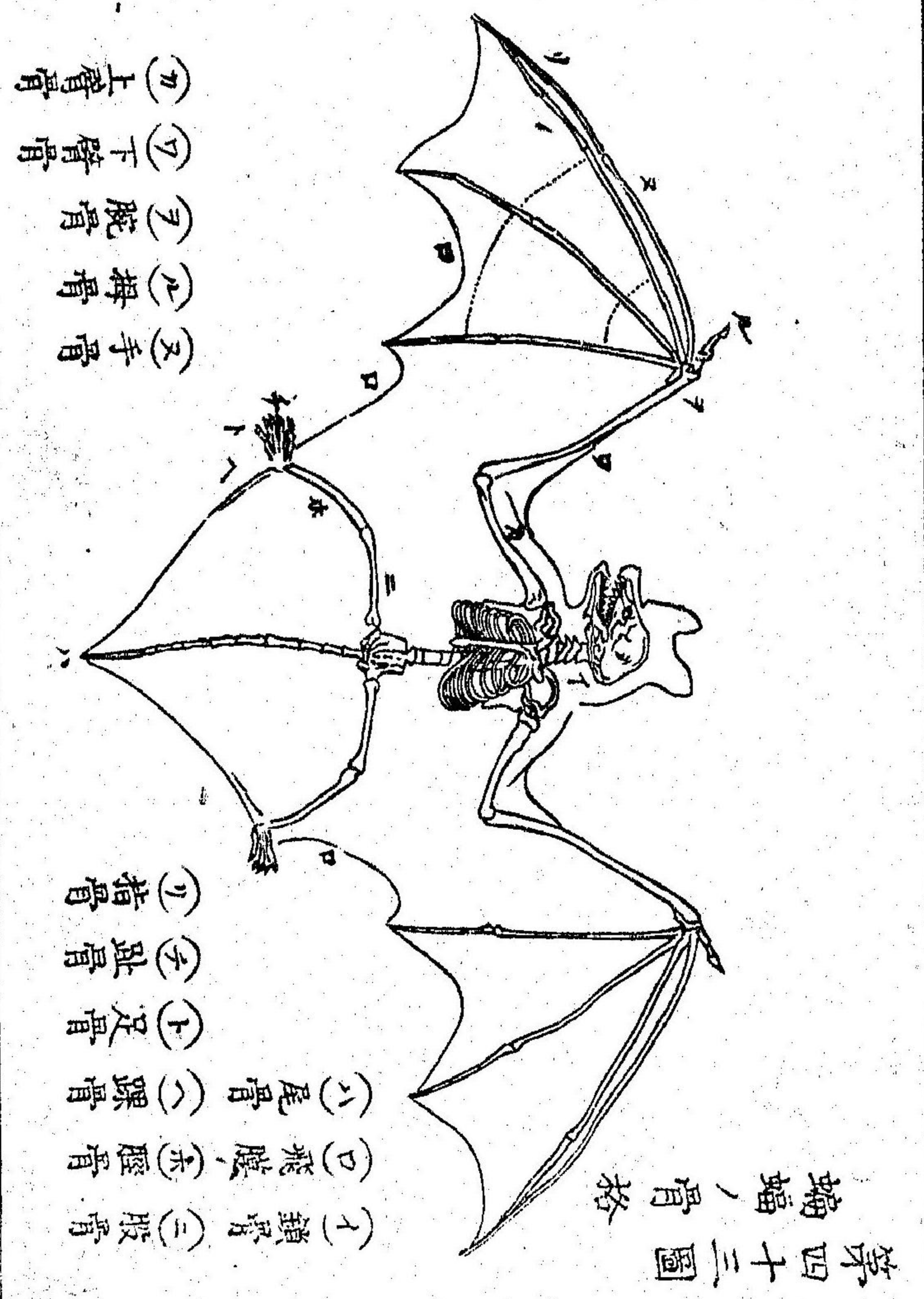
### 第十一回

前肢ヲ變シテ翼トスル胎生獸ノ事

前肢ヲ變シテ翼トスル胎生獸ハ即チ蝙蝠ノ一  
族ナリ此類ハ翼ニカアリテ能ク空中ヲ飛行ス  
故ニ他ノ胎生獸ト大ニ其性ヲ異ニセリ然レモ  
其飛行ノ翼タル全軀ノ周圍ニ張開スル薄膜ニ



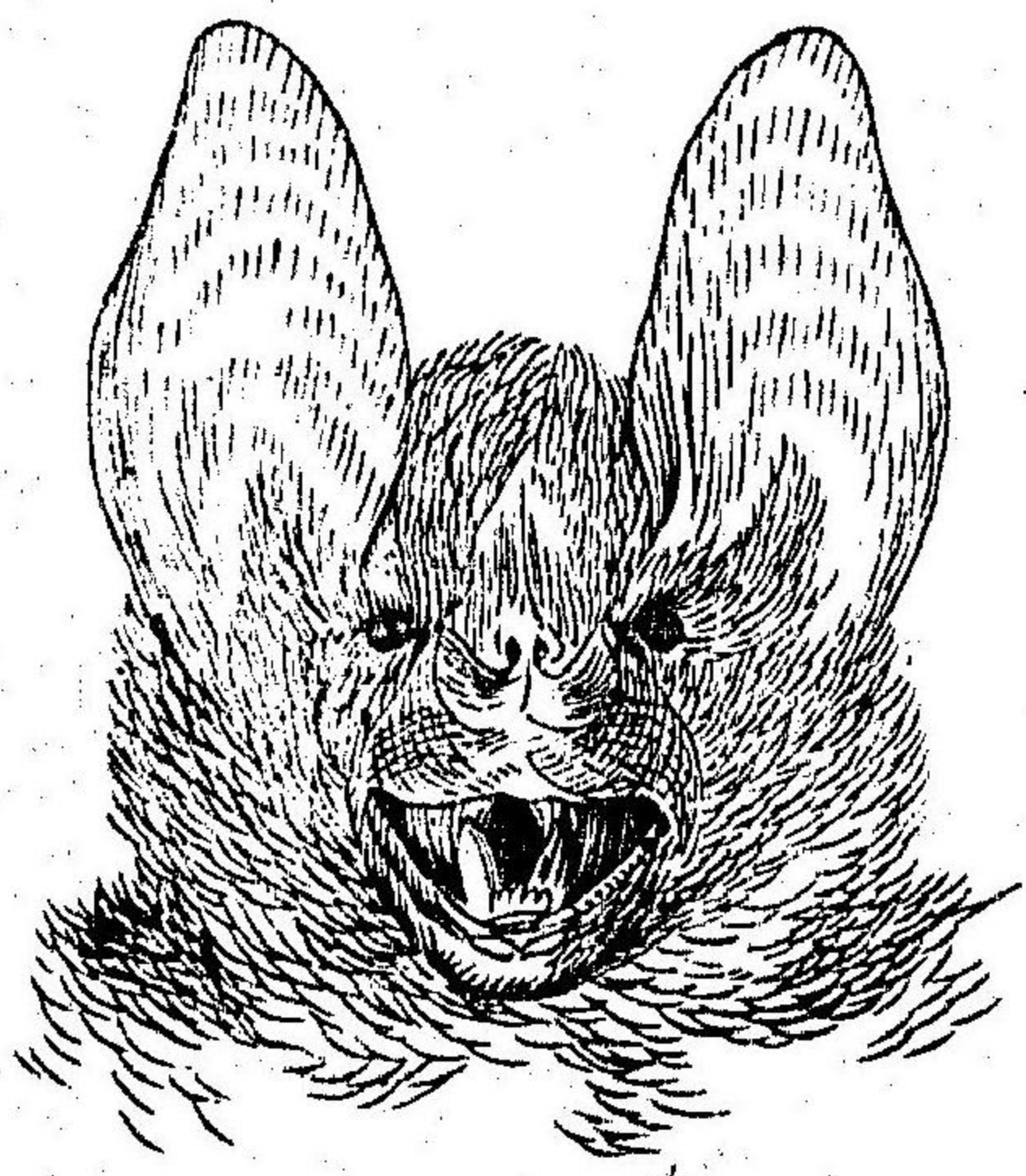
= 依レハ亦鳥獸ト其體成ヲ同フヤス蓋シ其薄  
 膜ノ附着開閉自在ナルハ第四十三圖ニ掲クル  
 四指長骨ノ動作ニ依ル恰モ蝙蝠傘ノ絹帛ト鋼  
 鐵條トニ於ルカ如シ然レモ獨リ拇指ハ突出シ  
 テ其尖端ニ鉤尖狀ノ爪ヲ有セリ其足ト尾モ亦  
 薄膜ニ聯結シテ其開張ヲ補助ス殊ニ尾ハ船舶  
 ノ舵ノ如ク飛行スルニ臨ンテ其運轉ノ方向ヲ  
 主任ス其胸骨ノ如キモ亦腕ヲ舉止セシムル筋  
 絡ノ動作ヲ管理セハ鳥類ニ等シク前ニ突出シ  
 テ其形狀稍船舶ノ龍骨ヲ見ルカ如シ故ニ其肩





骨鎖骨ノ構造亦皆堅牢ナルヲ知ルヘシ  
 蝙蝠ニ數種ノ類アリテ或ハ菓實ヲ食スルアリ  
 或ハ羽蟲ヲ食スルアリ或ハ動物ノ鮮血ヲ吸收  
 スルアリ其最後ノ一種類ノ如キハ其使用ニ適  
 スヘキ齒牙ヲ有セリ即チ第四十四圖ニ載スル  
 ワムピールノ巨大ナル蝙蝠ノ名ハ常ニ羽蟲ヲ餌食トセハ  
 其犬齒ノ銳利ナル猶ホ猫族ノ如ク其臼齒モ亦  
 細カニ尖銳ナル凹凸ヲナセリ故ニ外皮堅牢ナ  
 ル羽蟲ト雖氏二三嚼ニシテ直ニ之ヲ粉碎スヘ  
 シ又鮮血ヲ飲吸スル一種ノワムピールハ其齒

第四十四圖 ワムピールノ容貌

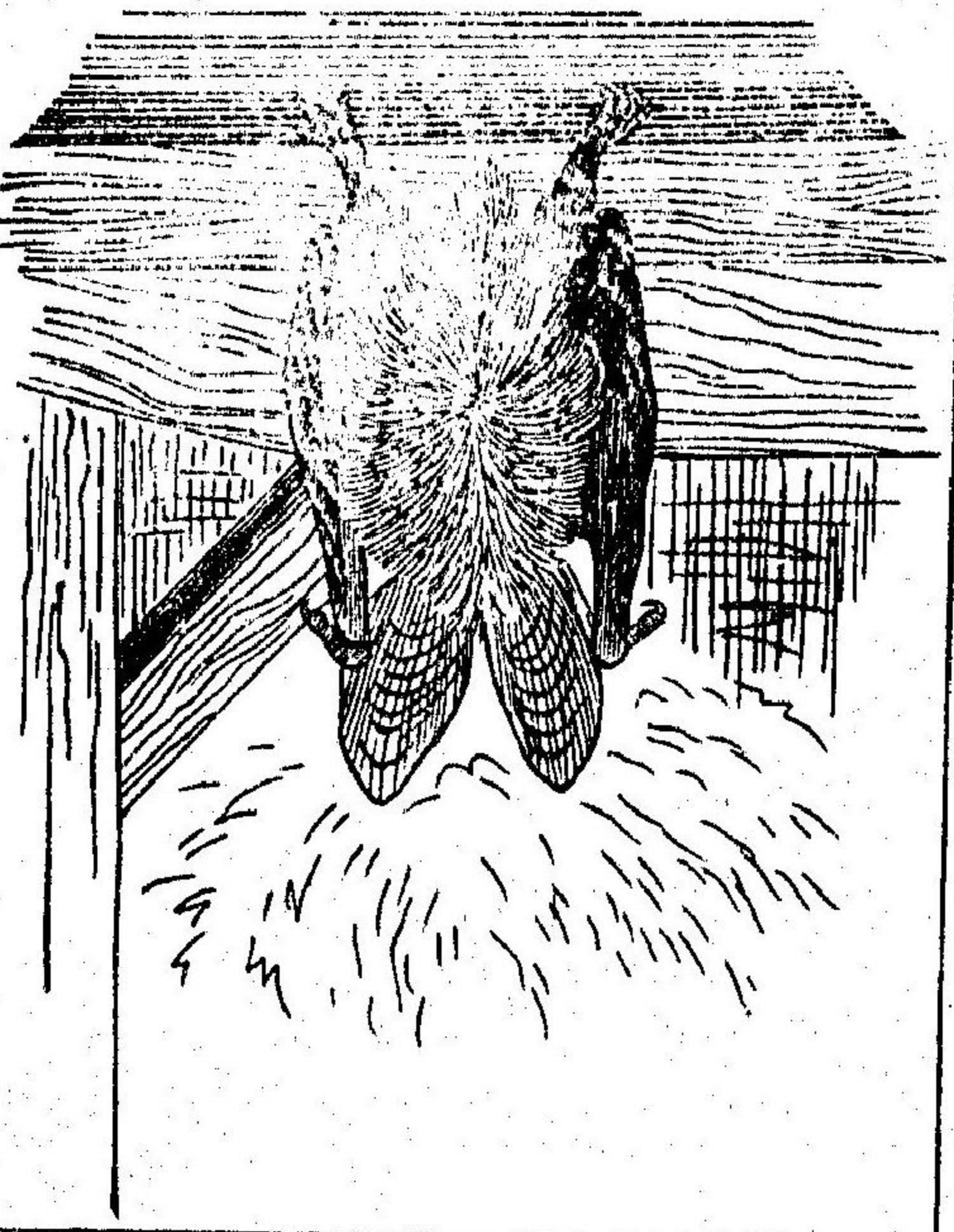


牙ノ尖銳ナル恰  
 モ放血刀ノ如ク  
 其口ヲ開ケハ下  
 顎ノ中央前部ニ  
 一ノ間隙アリ然  
 レ氏之ヲ閉ツレ  
 ハ上顎ナル二個  
 ノ門齒之ヲ塞キ

テ更ニ間隙アルヲ見サルヘシ故ニ之ニ咬傷ヤ  
 ラルレハ必ス三ツノ傷痕ヲ被ルニ至ル但シ蝙蝠



蝙蝠ノ白齒ハ其動作皆甚タ鈍クシテ餌食ヲ磨碎スルヲ能ハサルモノナリ



寢宿ノ蝙蝠 第四十五圖

蝙蝠ハ軀ノ周圍殆ト飛行ノ薄膜ニシテ手足皆之レニ聯結セハ地上ニ在テハ其歩ムニ難ムヲ甚シ其將ニ飛行セントスルモ亦甚タ

難シ故ニ其白日寢宿スルヤ第四十五圖ノ如ク足鉤ニ依テ倒懸シ冬日蟄居スルモ亦石窟若クハ破屋ニ在テ此ノ如シ但シ蝙蝠ハ其種類ニ隨ヒ或ハ第四十四圖ノ如ク鼻下ニ大ナル樹葉状ノモノヲ有スルアリ或ハ之ヲ有セサルアリ或ハ巨大ノ耳ヲ有スルアリテ其形貌各相同シカラス

第十二回

四手獸ノ事



猿類ヲ名稱シテ之ヲ四手獸ト呼ヘ其各種ノ四肢悉ク拇指ノ四指ニ對向スルヲ見ス然レ其後肢ハ必ス四指、拇指相對スレハ其名稱ヲ反シテ寧口脚手獸ノ名ヲ以テスルニ如カサランヤ而レテ其手ノ構造ハ四指長ク拇指短クシテ人手精巧ノ如キ動作ヲナス能ハス只樹幹ニ攀チ枝條ニ懸リ翻然身ヲ空ニ飄カヘスノ用ニ便ニセハ是レ亦手ノ名稱ヲ捨テ、寧口鉤ト云ハシカ猿類中殊ニチムパンセ<sup>○</sup>一<sup>○</sup>亞非利加產<sup>○</sup>ゴリ<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>ラ<sup>○</sup>ノ巨猿<sup>○</sup>等ハ其足下人足ノ如ク正シク地ヲ踏

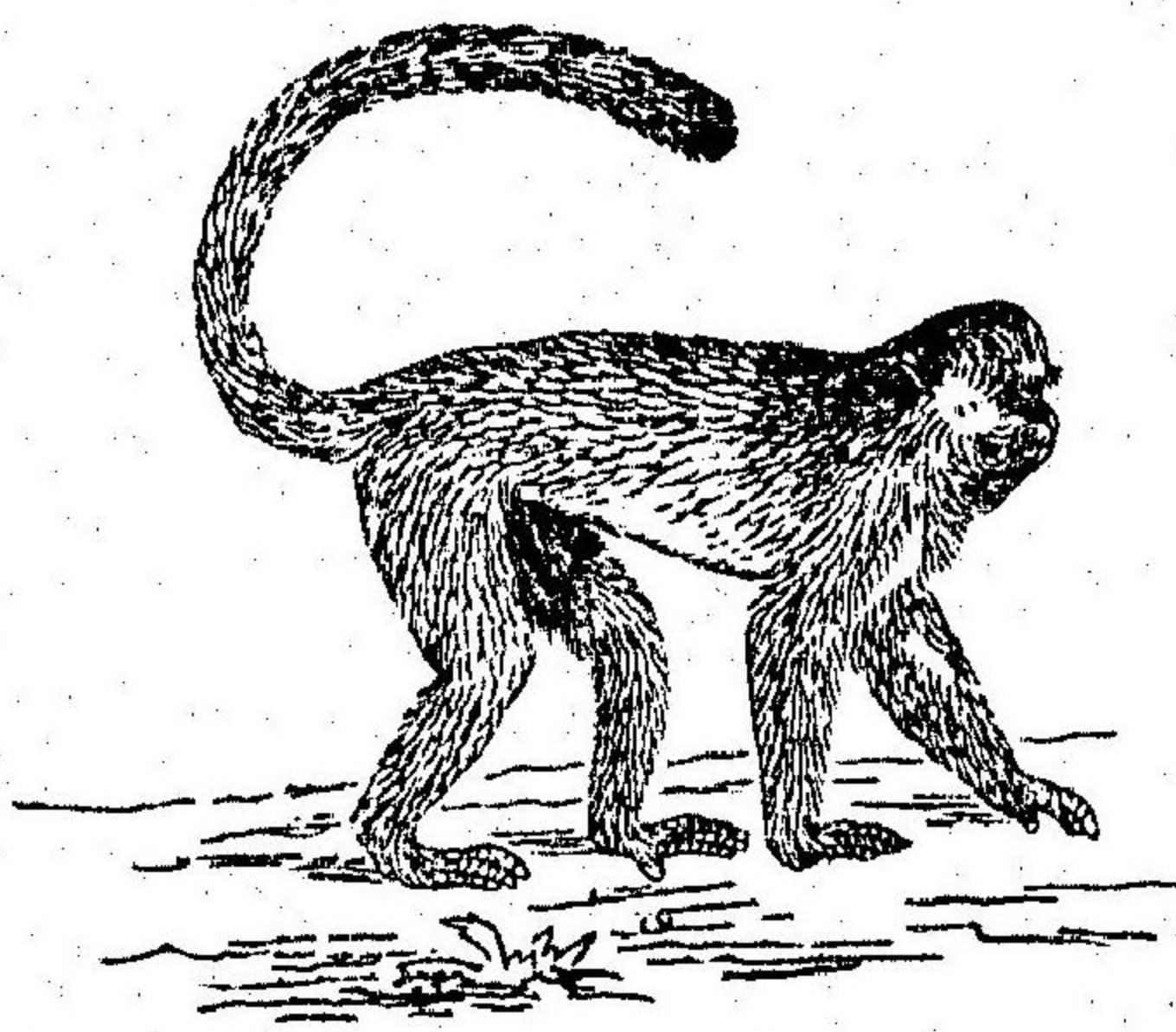
ム能ハスレテ唯僅ニ其外側ヲ接スルノミ蓋シ其用行歩ニ便スルナラスレテ却テ樹枝ヲ把ルノ便ニ出ツレハナリ故ニ人足ニ比スレハ其四趾長ク大趾モ亦其内側ニ位シテ手ノ拇指ニ代用ス其形狀ハ第四十六圖ニ於ルカ如シ既ニア<sup>一</sup>プ<sup>尾</sup>キ<sup>尾</sup>猿<sup>無</sup>類ノ足狀ヲ見ルニ人足ノ如ク踵骨高ク突出セスレテ數條ノ腓筋等シク脚ニ動作セサルカ為メ樹枝ニ據ラサレハ久シク直立シテ止マル<sup>一</sup>能ハス然レモ若シ其據ルヘキ樹枝ナク已ムヲ得サレハ奮踏シテ僅ニ行歩スヘシ





第四十六圖  
チムパンセー

四手獸中其種ヲ  
類別シテ三トス  
即チジニアデー  
一猿ノ族セビデー  
同族及ヒレヨリ  
上族及ヒレヨリ  
デ同族是レナ  
リ  
ジニアデー族ト  
ハ舊大陸ニ産ス  
ル  
ア  
イ  
ブ  
同  
長



第四十七圖  
モナー

大陸ニ産スル第四十七圖ノ如キ長尾猿ノ一族

尾猿及ヒ狒一大種ニ  
シテ長顔高臉短尾  
ナリ此類東方ノ大  
陸及ヒ其近傍ノ  
諸島ニ産セリ  
三種ヲ總稱ス其性  
皆雜食タレハ其齒  
牙ノ排列モ亦更ニ  
人齒ト異ナル所ナ  
シ  
セビデー族トハ新



ヲ指スノ名稱ニシテ此猿族ハ通常三十六齒ヲ  
有シ大ナル臼齒ヲ兩側ニ生ス  
レニリデー族トハ多ク馬達加斯<sup>マデガスカル</sup>ニ産スル猿類  
ノ名ニシテ其族多クハ齒數一定セサレ爪ハ  
大抵拇指ノ一個ニ止マレリ  
アープハ尾ナク兩臉ニ喙ヲ有セス然レ其種  
類ニ從ヒ或ハ足板ニ堅牢ナル褥肉ヲ有スルア  
リ或ハ否ラサルアリテ各種其體成ヲ小變セリ  
長尾猿ハ長尾ニシテ兩臉ニ喙アリ四手ニ褥肉  
アリテ其歩モ亦通常四手ヲ兼用ス

狒ハ其形狀稍アープニ類似スレ其臉喙アレハ  
大ニ其容貌ヲ異ニシ尾モ亦短少ナレハ長尾猿  
トモ全ク其形狀ヲ異ニス

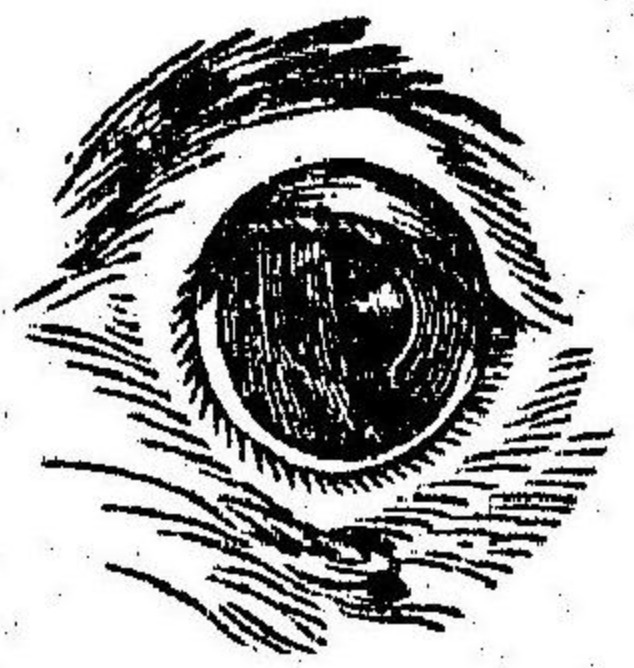
### 第十三回

#### 鳥類ノ事

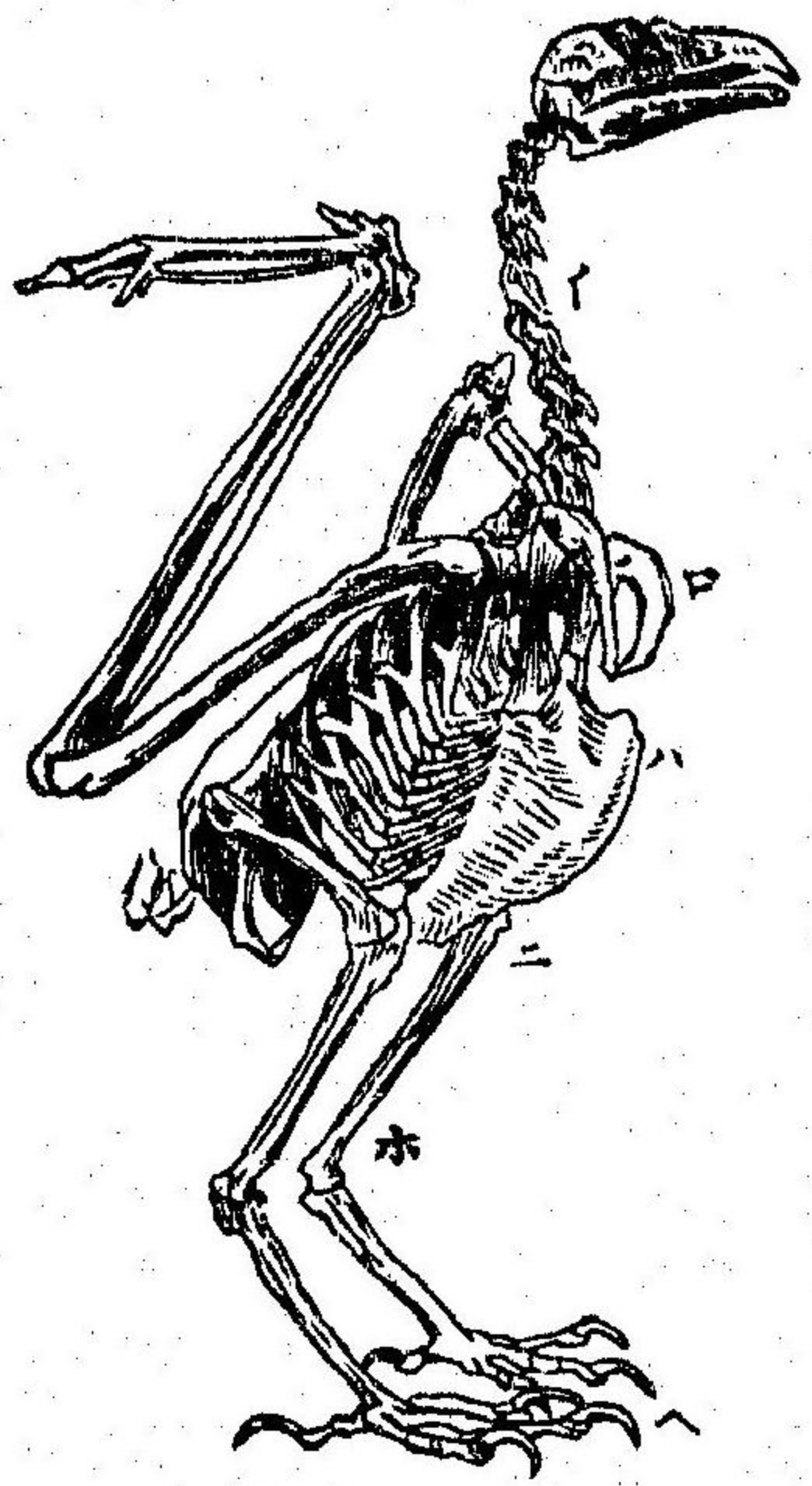
脊梁ヲ具有スル動物中第二等ニ位スルハ即チ  
前肢ヲ變シ羽翼トナシテ空中ニ翱翔スルモノ  
ナリ之ヲ鳥類ト名ク其成體ハ全身最モ輕ク肺  
臟及ヒ諸骨ノ内部ニ至ルマテ都テ空氣ヲ充實



- (イ) 頤骨
- (ロ) 鎖骨
- (ハ) 胸骨
- (ニ) 趾骨
- (ヘ) 股骨
- (ホ) 脚骨



第四十九圖  
鳥ノ瞬膜



第四十八圖 鳥ノ骨格

スルヲ以テ  
自在ニ飛揚  
翱翔スルノ  
易キヲ得ル  
ナリ而シテ  
鳥類ノ嘴ト  
足トハ其習  
性ニ從テ各  
其形狀ト構  
造トヲ異ニ

スル恰モ胎生獸ノ齒ト足トニ於ルカ如シ故ニ  
令其順序ニ隨テ逐次ニ之ヲ説示セント欲ス  
鳥類ノ鎖骨ハ左右相結合シテ其形狀恰モ(V)字  
ノ如クナレハ之カ鷄胸骨トナリ兩肩ヲ擴張シ  
且ツ翼骨ノ嵌入スル凹窪骨ヲ保支ス  
鳥類ノ眼目ハ眼球ヲ横斷シ鉛直ニ開閉動作ス  
ル第三眼瞼ニ依リテ之ヲ防護ス故ニ荆棘繁叢  
中ヲ飛翔クト雖トモ更ニ之ヲ傷害スルノ憂ナ  
シ且ツ其眼瞼ノ質タル稍透明ナレハ其視感ニ  
至リテモ敢テ大ナル障妨アルヲ覺ヘサルヘシ



鳥類中其部類ヲ區別スル左ノ如シ

猛鳥部 鷹ノ如キ生餌ヲ搏撃スル類

雀ノ如キ樹木ニ棲宿スル類

棲鳥部 鷹ノ如キ樹木ニ棲宿スル類

鴟鵂ノ如キ樹木ニ攀躋スル類

攀鳥部 鴟鵂ノ如キ樹木ニ攀躋スル類

吐綬ヒチメンテウノ如キ地ヲ爪搜シテ餌ヲ求ムル類

鷄鳥部 吐綬ノ如キ地ヲ爪搜シテ餌ヲ求ムル類

駝鳥ノ如キ逸足ニ馳走スル類

走鳥部 駝鳥ノ如キ逸足ニ馳走スル類

スル類

涉水鳥部 鷺ノ如キ長脚アリテ水中ヲ行涉スル類

鳴ノ如キ水中ニ游泳スル類

泳水鳥部 鳴ノ如キ水中ニ游泳スル類

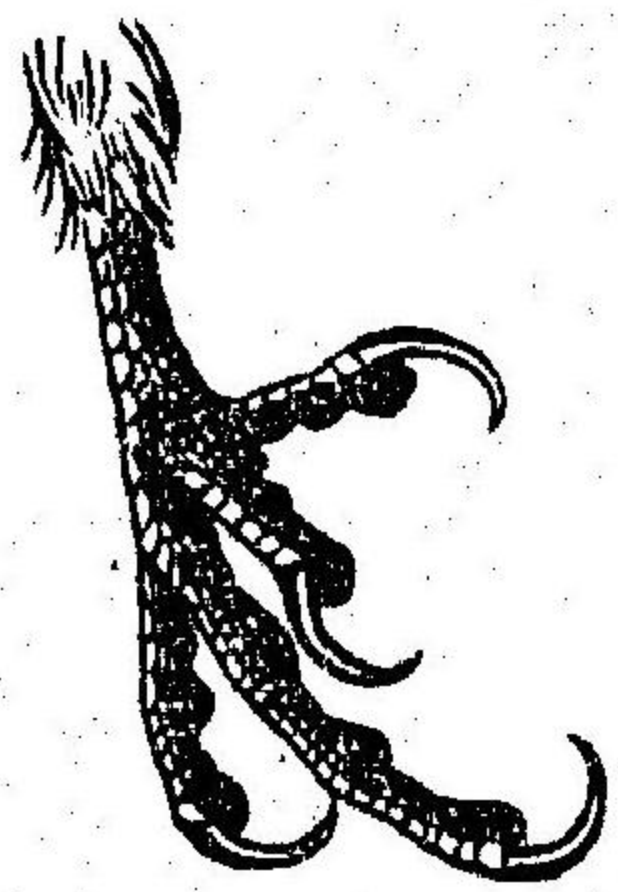
猛鳥部トハ生餌ヲ搏撃スル強鳥類ニシテ之レニ二種ノ別アリ即チ晝翔猛鳥及ヒ夜翔猛鳥是レナリ

晝翔猛鳥中亦鷹族及ヒ鷓族ノ二種アリ鷹族ハ其性頗ル剛猛ニシテ筋骨強ク身軀甚タ輕ク視



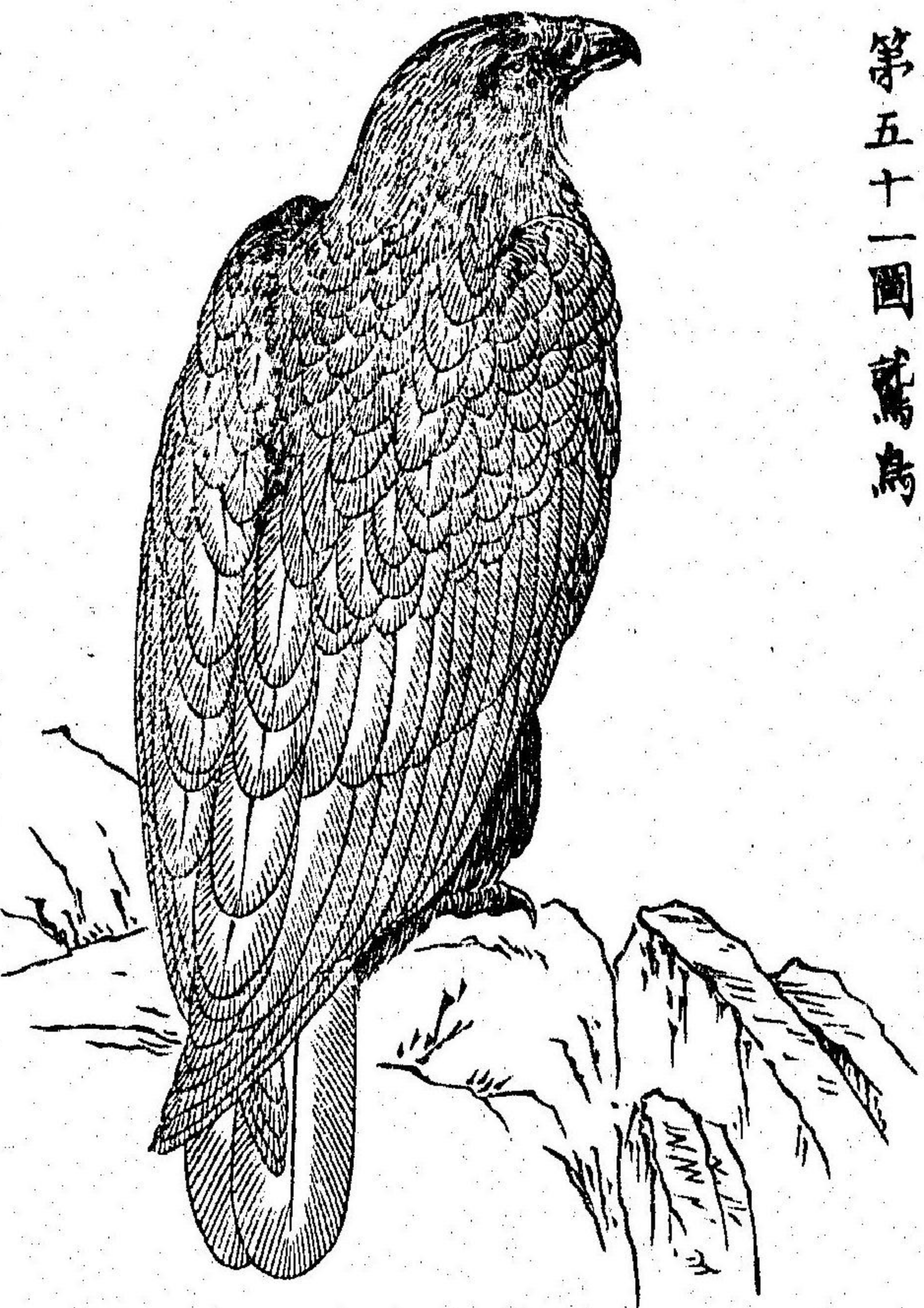
力最モ銳シ故ニ古ハ其鷹鳥ヲ貴鳥ト稱呼シ馴  
 ラシテ之ヲ狩獵ニ使役セリ是レ其爪ノ銳利ナ  
 ル第五十圖ノ如クナレハ之ヲ奮ツテ他鳥ヲ捕

第五十圖



攫スルニ足レハナ  
 リ  
 他國ニ産スル鷹鳥  
 中其飛翔ノ神速ナ  
 ル實ニ驚怖スヘキ  
 一種アリ嘗テカル  
 ペントル氏ノ説ア

リ曰ク其速力二十四時間ニシテホンテインプ  
 第五十一圖鷹鳥



リ馬  
 ニ至ル  
 一千三  
 百五十  
 有餘里  
 ノ遠キ  
 ニ達ス  
 ヘシト



然ラハ則チ一時間毎ニ其飛翔凡ソ五十六里ノ  
割合ニ當レリ然レ夜間就眠ノ時アレハ長日  
ニシテ翔飛ノ時間十六時或ハ十八時トナスモ  
一時間ニ七十里乃至八十里ヲ翔ケルニ非サレ  
ハ此ノ如キ最遠距里ニ達スルヲ能ハサルヘシ  
爰ニ又鷹族ノ二種類アリ即チ一ハ鷲ニシテ一  
ハハカクノ鷹ノ是レナリ  
鷲ハ骨格剛猛ニシテ視力最モ利ク容貌亦甚ク  
威嚴ナリ常ニ大ナル禽獸ヲ捕擥シテ之ヲ餌食  
ス若シ飢ニ迫レハ小鳥タモ亦食ハサルナシ然

レ氏躬カラ搏ツ所ノ生肉ニ非サレハ飢ユルモ  
敢テ之ヲ顧ミサルヘシ

鷲ハ高山斷崖ノ絶險ニ巢ヲ造營ス之ヲ鷲鳥巢  
ト名ク其ノ之ヲ營ムヤ山麓ヨリ巨木ノ條枝及  
ヒ木頭ヲ運輸シテ之ヲ造ル頗ル堅牢ナレハ暴  
風烈雨ニ遇フモ更ニ壞敗ノ憂ナシ  
鷲鳥ノ巢中ニ其生子ヲ養フヤ豫メ之レニ供ス  
ヘキ餌食ヲ茲ニ運輸ス因テ常ニ其食ニ乏シキ  
トナシト嘗テアントリムニ一獵夫アリ一日出  
テ、山ニ獵ス偶鷲雛二匹ヲ得タリ之ヲ飼フテ



其母鷲ノ往来スヘキ地ニ安置スルニ一夏季ノ  
間母鷲日々ニ家兎野兎等ノ小獸ヲ運哺スル  
其量許多ニシテ主人其飼料ヲ收メ他之ヲ親族  
朋友ニ配布スルモ猶ホ其量大ニ餘リアリト  
云フ

ハウクハ其性鷹ニ類似スルヨリ大古ハ多ク之  
ヲ狩獵ニ使役セリト又此一種類ナル鷲ノ如キ  
ハ好シテ腐肉ヲ貪食セハ嘗テ第八世顯理王ノ  
時代ニ至ルマテ倫敦及ヒ其他ノ市街ニ於テハ  
有害ナル汚穢物ヲ掃除セシムルノ要鳥ト稱セ

リト土耳其及ヒ埃及ノ如キハ猶ホ今ニ至ル迄  
除穢ノ用アルヲ以テ大ニ之ヲ貴重セリト云フ  
鷹ノ一種ニシテセ。ク。レ。タ。リ。、。グ。ル。ト。  
執筆鳥ノ義ナリ

ト名クルモノアリ抑此名稱ノ起ルヤ其形狀頭  
後ニ突出シタル飾毛アリテ恰モ筆記者ノ耳ニ  
毫筆ヲ挟入セルカ如クナルニ出テシナランカ  
セクレタリ、ブルドナル者ハ常ニ走蛇及ヒ他  
ノ跋行虫ヲ捕ヘ利嘴ヲ以テ其首頭ヲ刺裂シ好  
ンテ之ヲ餌食トス嘗テ佛國ノ旅客ヲベイラン  
ト氏トル者アリ遇此鷹ヲ得タリ試ニ其臙腑ヲ

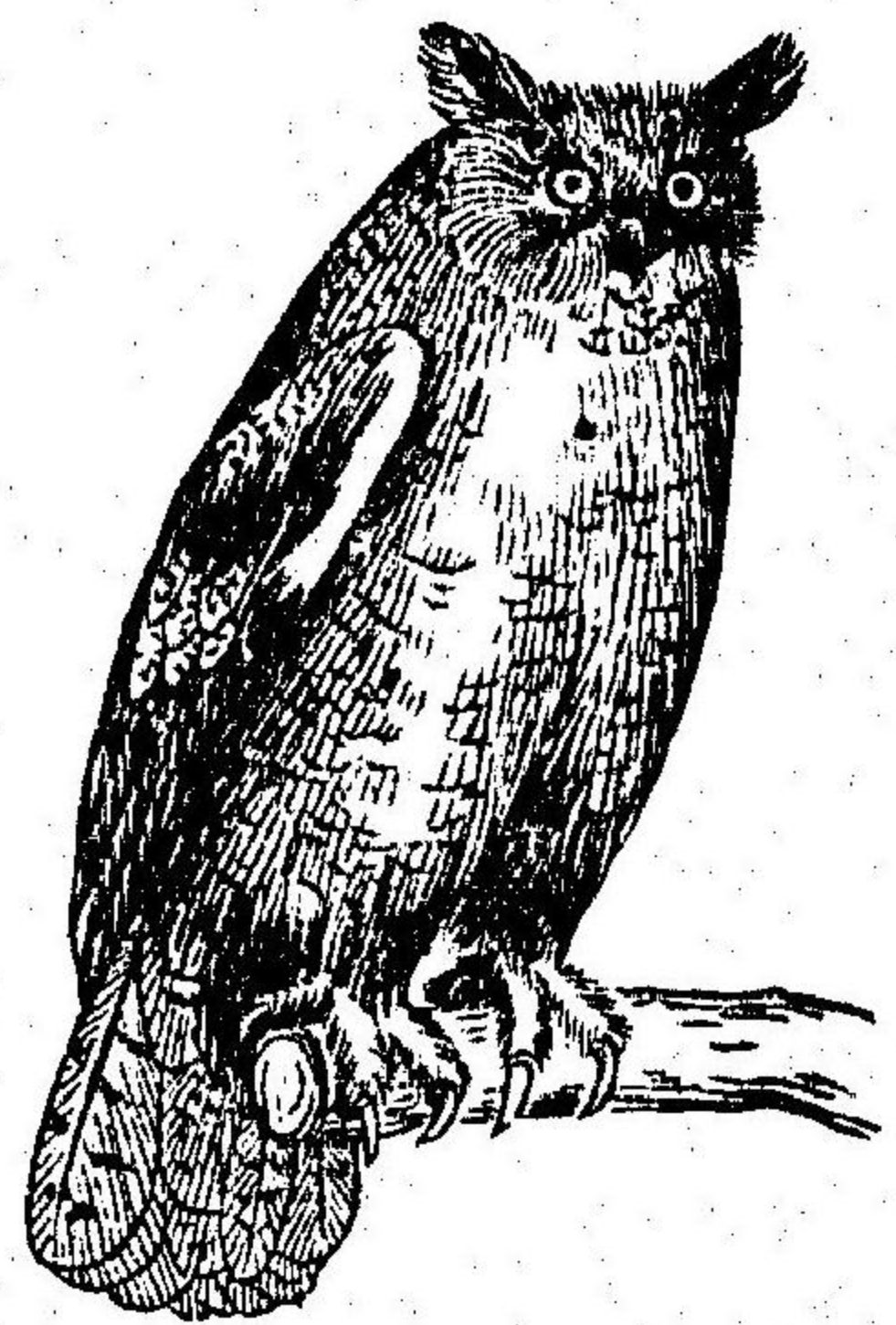


割キテ之ヲ點檢セシニ頭首ヲ破裂セル大蜥蜴  
 十一、腕長ニ等シキ蛇三、小龜十一、其他蝗蚱、有害  
 甲虫等ノ數多アルヲ發見セリト是レ其鷹ノ惡  
 食ナルヲ證スルニ足ルヘシ  
 鷗ハ他ノ猛鳥ト其質ヲ異ニシ性甚タ怯懦ニシ  
 テ飢ニ迫ルニアラサレハ敢テ生物ヲ捕攫セス  
 好シテ腐肉ヲ常食トス故ニ之ヲ掃除鳥ト名ク  
 又其視カト嗅官ハ共ニ頗ル銳敏ニシテ一動物  
 ノ死肉アルヤ最速ナル距離ヨリ之ヲ嗅取シテ  
 其飛下ニ來ル恰モ天際ヨリ物ヲ降スカト疑フ

ヘシ故ニ屋内ニ死物アレハ遠隔ノ地ヨリ之ヲ  
 嗅覺シ忽チ飛來シテ其屋ニ棲ムト云フ又其翼  
 ハ搏力剛強ニシテ能ク動物ノ腐肉ヲ攫去スル  
 ヨリ埃及及ヒ上耳其ニ在テハ大ニ之ヲ貴重セ  
 リト土耳其鵬ト名クル一種モ亦市街ノ穢汚ヲ  
 掃去スルヨリ牙買加等ハ多ク之ヲ尊賞ス印度  
 ノ如キハポウチド、アジタントト稱スル扶老鳥  
 ノ一種アリテ之レカ其勞役ニ代ルト云フ  
 夜翔猛鳥トハ則チ梟族ノ指名ナリ其形狀ハ頭  
 首大ニシテ目光モ亦圓大ナル猫ノ如ク故ニ他



ノ猛鳥ト其別ヲ詳カニス蓋シ此鳥族中其種類ニ從テ夜光幽明ヲ集束センカ為メニ眼ノ周圍



第五十二圖

ニ白圓扁皮ノ繞圍スルモノアリ而シテ梟族ノ肉翼ハ其羽間ニ細毛アリテ相密着セサレハ其飛揚スルモ神速ナラスシテ亦猫ノ如

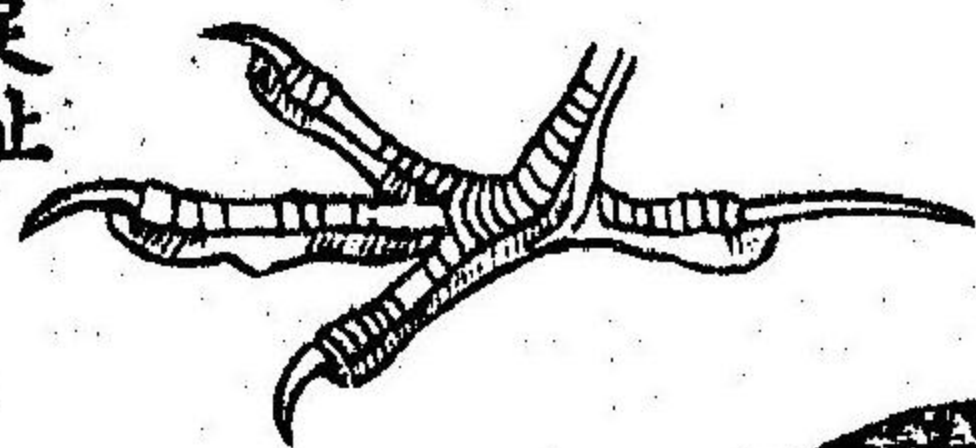
シ是レ夜間棲枝ノ小鳥或ハ深夜逍遙スル所ノ小歌ヲ捕フルニ出ツルナランカ故ニ梟族ハ多ク鼠鱉鼠等ヲ餌食トス又歐洲北地ニ産スルモノ、如キハ好ク小鳥ヲ攫シテ之ヲ餌食スヘシ棲鳥部ハ他ノ鳥類ト其性ヲ異ニシ多クハ巧ニニ其巢ヲ造營シテ無事ニ其生子ヲ養育ス且ツ第五十三圖ノ鶯、鶉、及ヒ其他ノ轉舌鳥ノ如キハ其音調爽快ニシテ善ク耳聞ヲ喜ハシム其足ノ形狀ハ第五十四圖ノ如ク四趾ヲ有スレモ三趾前方ニアリ一趾後方ニアリテ前後二趾ニ分ル



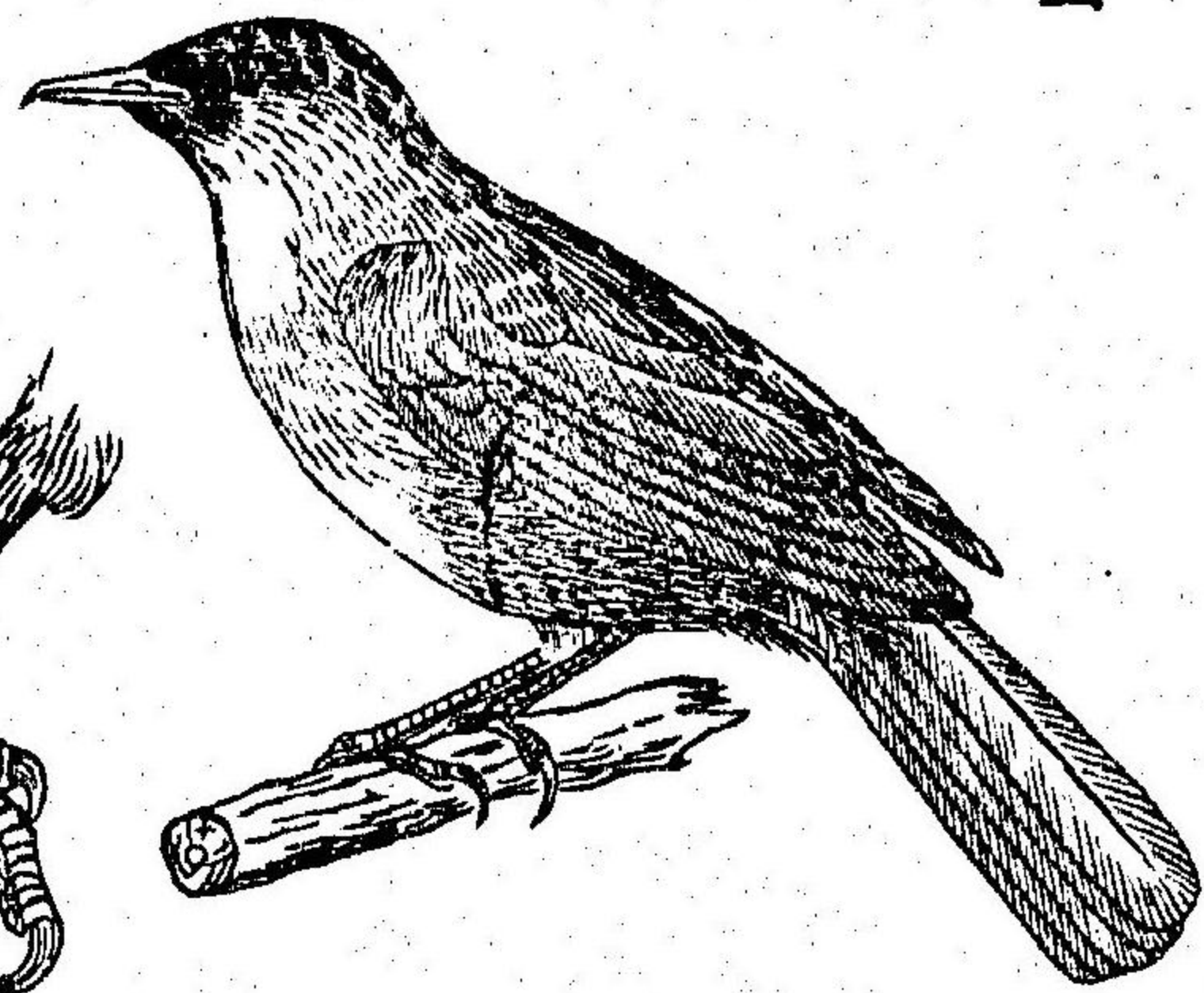
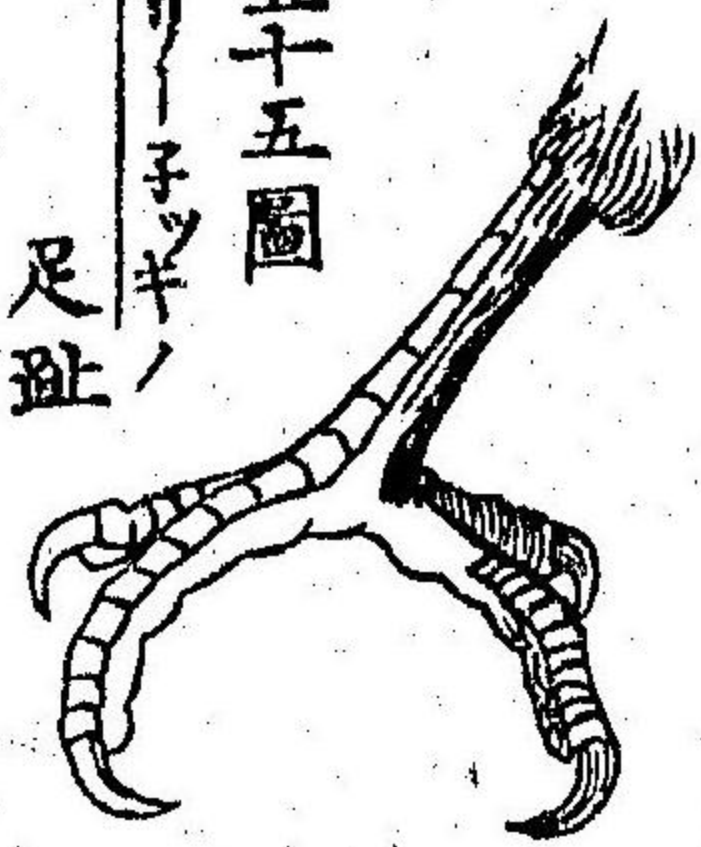
第五十三圖  
鶯

第五十四圖

雲雀ノ足趾



第五十五圖  
ツグキノ足趾



ルモノアルヲ見  
ス又此鳥族ハ常  
ニ終日飛行セハ  
概子其翼大ニシ  
テ其脚自カラ短  
ク且ツ其細弱ナ  
ルヲ知ルヘシ  
攀鳥部ハ第五十  
五圖ノ如ク足ノ  
形状前後各二趾

第五十七圖

コツカツツ



第五十六圖  
鸚鵡

ニ分派セハ他鳥  
ト詳カニ其類ヲ  
異ニス是レ此鳥  
類ハ常ニ樹上ニ  
攀チ枝條ヲ握リ  
テ其周圍ニ旋廻  
スルノ性アルニ  
因レハナリ讀者  
モ亦必ス鸚鵡等  
ヲ見テ既ニ之ヲ



知ルナラン殊ニ鸚鵡ノ如キハ其嘴下方ニ彎曲  
 シテ鉤ノ形狀ヲナセハ大ニ其攀躋ト旋廻ト  
 助クルニ至ル即チ啄木鳥、ウリー子ツキ一種  
 杜鵑、鸚鵡、トウカン鳥ノ名等ハ皆此部類ニシテ第  
 五十六圖及ヒ第五十七圖ニ掲載スル鸚鵡、コッカ  
 ツ一種ノ如キハ能ク人語ヲ模擬シ人ヲシ  
 テ大ニ解頤セシム

第五十八圖ニ揭示スル啄木鳥モ亦此鳥族ノ一  
 種タレトモ其足趾鸚鵡ヨリモ真直ニシテ且ツ長  
 シ故ニ其足趾ヲ張開シ尾端ニ在ル十刺ヲ以テ



第五十八圖 啄木鳥

孔中ニ挿入シテ内部ニ潛伏スル蟲類及ヒ其卵

躬ヲ樹上ニ維持  
 シ其枝幹ヲ廻轉  
 セス却テ尖銳ナ  
 ル嘴ヲ以テ常ニ  
 樹皮ヲ剥啄ス而  
 シテ其樹皮ニ深  
 孔ヲ穿チ尖刺ヲ  
 ル鋸齒ノ如キ喙  
 ヲ延伸シ之ヲ其

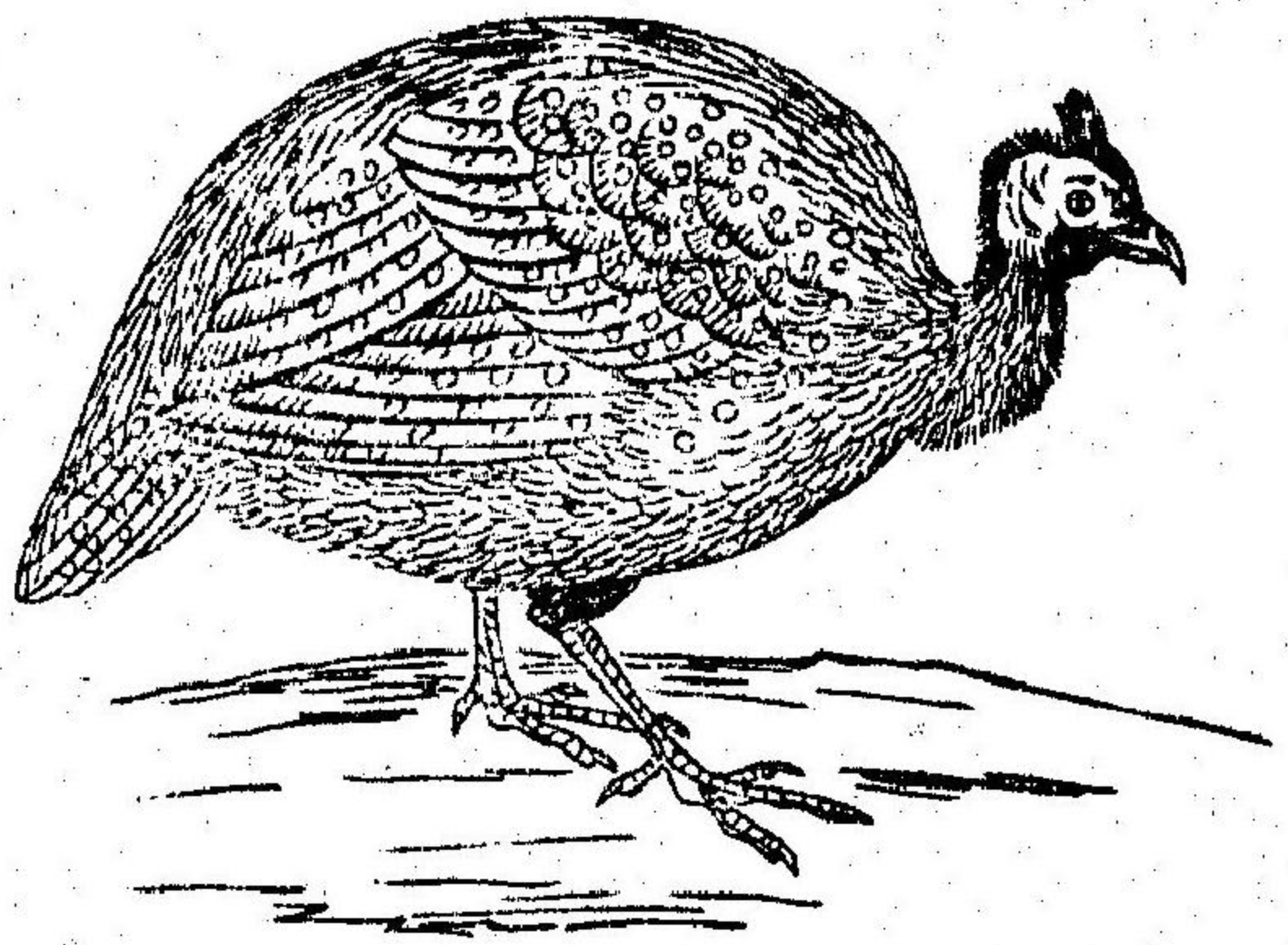


子ヲ餌食セリ

鶏鳥部トハ鶏ノ一族ヲ指ス名稱タリ通常ノ家  
鶏ヲ見ルモ亦其模範トナスニ足ルヘシ凡ソ此  
鳥類ハ專ラ穀類ヲ餌スルト雖モ其皮穀ヲ磨嚼  
粉碎スヘキ齒牙ヲ有セサレハ常ニ之ヲ吞食ス  
故ニ其餌食ハ先ツクロップト名クル腺囊ニ下リ  
暫クシテ濕氣ヲ含メハ更ニ胃管ヲ通過シテ堅  
厚實質ヨリ成ル所ノギザルドト名クル胃部ニ  
達ス此胃中ニハ啄食ノ時偶然併吞セシ砂粒ノ  
存在スルアレハ齒牙ニ代リテ能ク穀食ヲ消化

スヘシ又鶏類ノ脚ハ其構造一條ノ強健腰部ヨ

第五十九圖 珠鶏

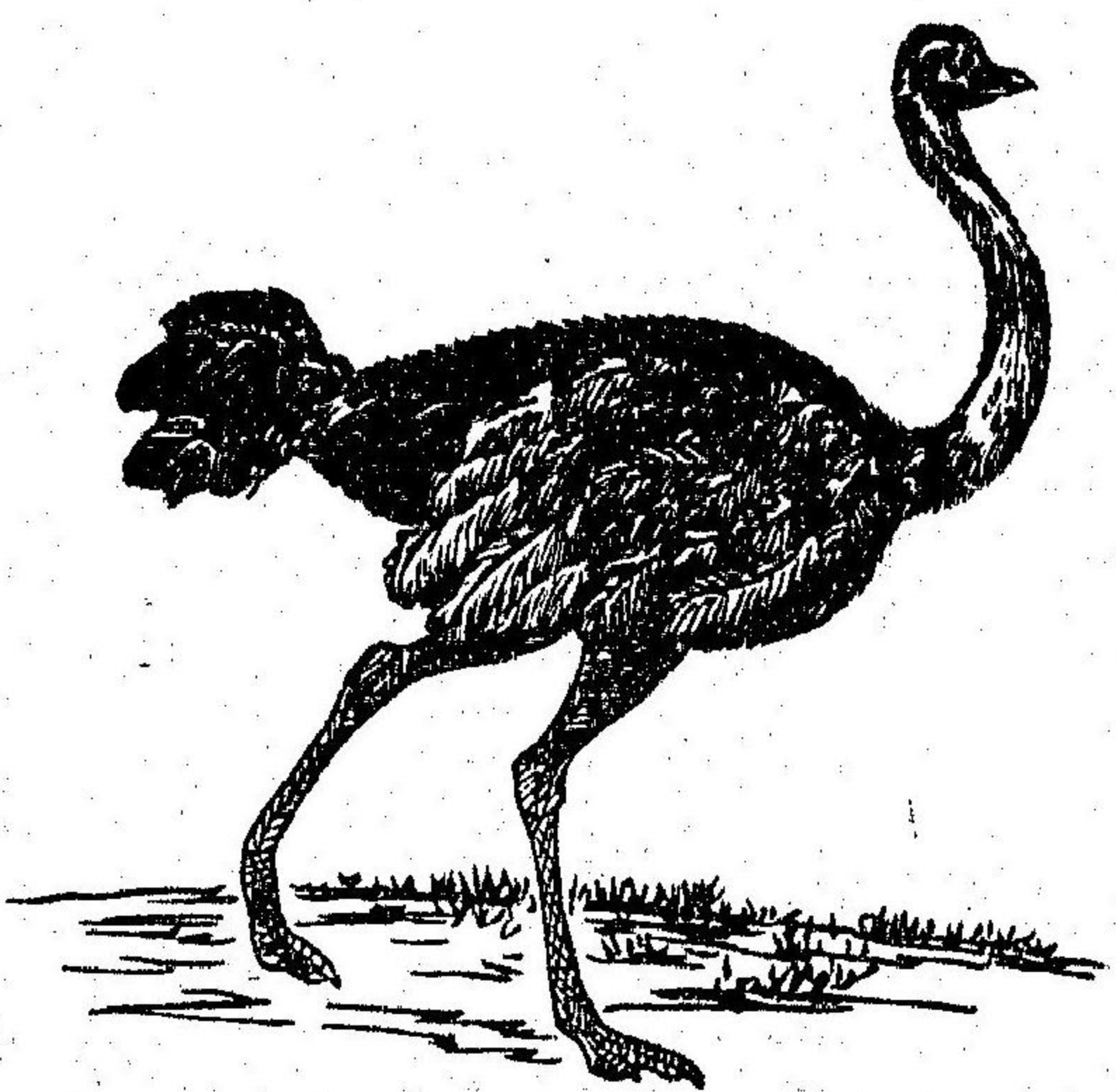


リ出テ、足趾ニ達  
セリ故ニ鶏身一膝  
節ニ傾ムケハ其健  
節カラ收縮シテ其  
足趾ヲ握ラシムベ  
キカラ發スルニ至  
ル既ニ鶏身ノ一脚  
ニ委シテ直立スル  
モ亦其健ノ多カラ



ルニ因ルヘシ但シ此鳥類中其貴重ナルモノハ  
 吐綬鷄孔雀第五十九圖ナル朱鷄野鷄トキグロウクス  
 一鷄類ノ及ヒ鳩等ナリトス唯其鳩ノ如キハ時ア  
 リテ他ノ部類ニ加ヘラルヘシ  
 走鳥部トハ他ノ鳥類ト其形狀大ニ異ナリ皆長  
 脚小翼ニシテ飛揚スルヲ能ハス此部類中ニハ  
 其羽翼甚タ小ニシテ或ハ之ヲ有セサルカト訝  
 ルモノアリ故ニ此部類中其種族ヲ分チテ二ト  
 ス即チ駝鳥族及ヒア。プ。テ。リ。キ。ス。族新西蘭ニ  
 名是レナリ

駝鳥ハ其翼小ニシテ飛揚スル能ハスト雖其  
 第六十圖 亞非利加駝鳥



翼ヲ鼓シテ馳走  
 スルヤ空氣ヲ掃  
 ヒ以テ大ニ行進  
 ノ便ヲ補ク亞非  
 利加駝鳥ハ脚ニ  
 二趾アリテ其内  
 側ニアルモノヲ  
 外側ニ比スレハ  
 其長サ殆ト二倍

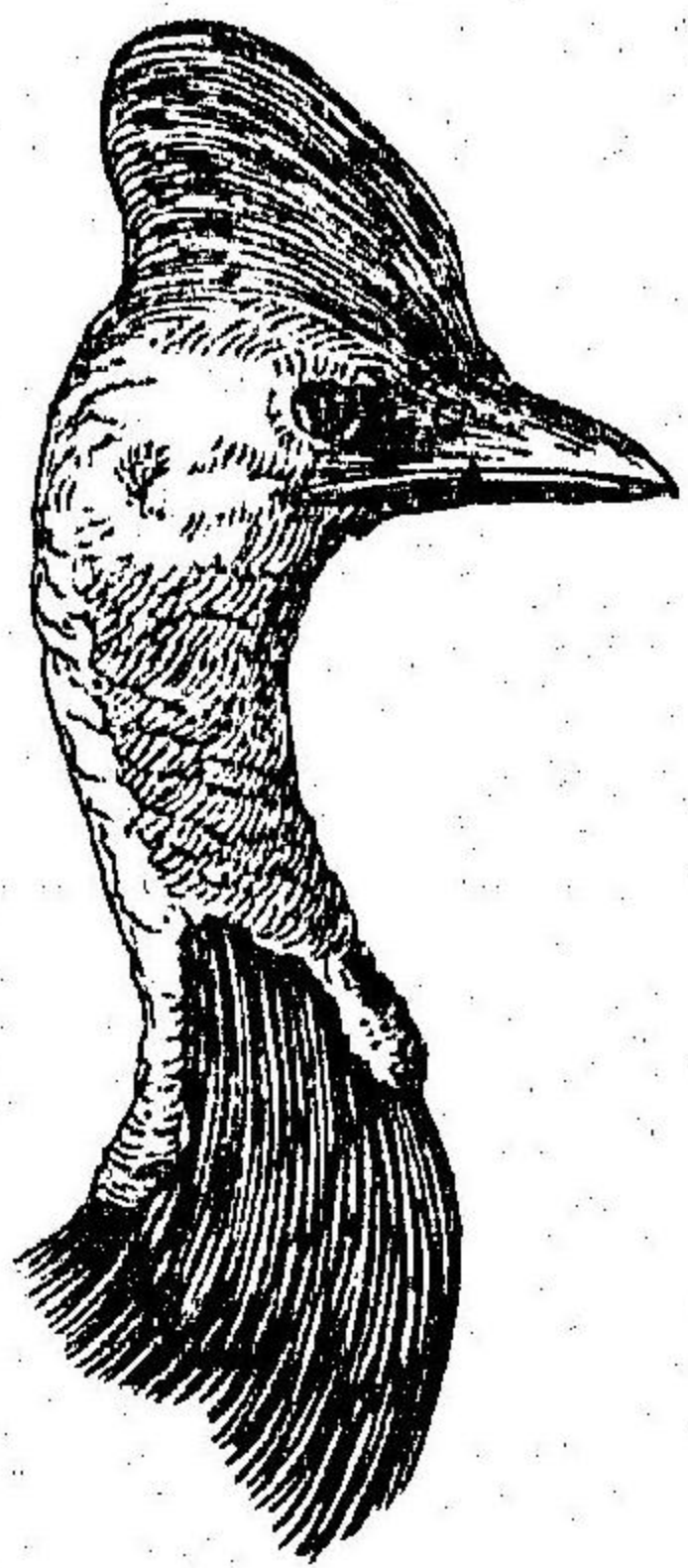


セリ是レ駝鳥ノ此ノ如キ足趾ヲ有スル所以ノ  
 モノハ駱駝ト等シク常ニ亞刺比亞及ヒ亞非利  
 加内地ノ沙漠ヲ馳走スルノ性タルニ因レハナ  
 リ故ニ其馳走ノ駿速ナルハ實ニ驚怖スヘキニ  
 シテ諸鳥中他之ニ比スヘキモノナク且ツ其卵  
 子ノ如キモ亦巨大ニシテ重量稍三斤ニ至ルト  
 云フ  
 レ。ア。ト。稱。ス。ル。亞。墨。利。加。駝。鳥。ハ。伯。西。爾。ノ。南。方。ヨ  
 リ。巴。他。義。尼。ノ。北。方。ニ。注。ク。拉。巴。拉。他。河。ニ。接。ス。ル  
 廣原ノ産ニシテ其形狀亞非利加駝鳥ニ比スレ

ハ稍小ナリト雖其脚ハ各足三趾ヲ有セリ  
 イ。三。ニ。ト。稱。ス。ル。新。和。蘭。駝。鳥。ハ。其。形。狀。軀。身。ノ。長  
 量共ニ亞非利加産ニ同シケレ其羽翼ハ全身  
 包被ノ羽毛ニ隱レ甚タ小ニシテ殆ト之ヲ見ル  
 可ラサルモノナリ蓋シ其羽毛ノ如キモ其質甚  
 タ堅牢ナレハ寧口枝毛ト稱スルヲ以テ之ニ適  
 スルトセンカ  
 瓜哇産ノ食火鷄モ亦イニユニ類似シテ身軀ニ  
 羽ナク両肩ニ翼ナク只馬鬣ノ如キ硬毛ヲ以テ  
 全身ヲ包羅ス而シテ其族ニニアリ一ハ第六十



第六十一圖 食火鳥ノ首頭



毛ニ覆フハレテ明カニ其翼タル形状ヲ見ルヘ  
 カラス其産スルヤニウゼーランド新西蘭ニシテ其餌ハ長嘴ヲ

一圖ノ如ク頭上  
 ニ骨質ノ鶏冠ヲ  
 頂キ一ハ之ヲ頂  
 カサルモノトス  
 アプテリーキス  
 モイミユノ如ク  
 稍翼状ノ羽ヲ有  
 スレトモ全身ノ羽

動作シ地ニ穴シテ常ニ虫類ヲ啄食ス近日此種  
 族漸々消滅シテ偶土中ヨリ發掘スル遺骨ノ外  
 全ク其本體ヲ見ル能ハサルニ至リシト云フ  
 涉水鳥部トハ河水ヲ游歩スル鳥類ナレハ皆長  
 脚ニシテ能ク河水ヲ涉リ其深キニ到ルモ羽翼  
 ヲ浸サスシテ巧ニ水蟲游魚等ヲ啄哺スヘシ  
 其形状ハ皆短尾ナリト雖長翼ニシテ其力甚  
 ヲ強シ其頸ノ如キモ亦延長ニシテ嘴ヲ仰ケハ  
 脚ト其丈量ヲ等フス但シ此部ニ屬スルモノハ  
 即チ鵞憂鷄ヲウキング鳥ノ鶴鷺篋鷺扶老鳥鵠



第六十二圖 扶老鳥



ラ。イ。ル。等。ニ。於。ル  
カ。如。シ  
扶老鳥ハ舊大陸  
ニ多産スル渉水  
鳥ノ一種族ニシ  
テ其性善ク惡蟲  
ヲ驅除スルヨリ  
神聖ノ遺物ト尊  
崇シテ大ニ之ヲ  
重敬スル地方ア

リ其種類中印度産ノアルガラ一種ノト稱スルモ  
ノ、如キハ咽喉ノ前部ニ一大囊ヲ有シテ毎ニ  
腐肉、屑肉等ヲ饕餮ス殊ニ其口喙ノ巨大ナルハ  
羊脚兎、家禽等ヲ一吞シテ之ヲ食囊中ニ嚥下ス  
ヘシ嘗テエベラルド、ホーム氏ナル者アリ此鳥  
ヲ捕獲シ試ニ其食囊ヲ剖解點檢スルニ其丈量  
八寸餘ナル大龜一、腐爛シタル黒猫一、其他諸腐  
肉ノ存在スルアルヲ見タリト而シテ此アルガ  
ラ及ヒ其一族タル亞非利加産マ。ラ。ボ。ー。ノ羽毛  
ハ頗ル艶麗ニシテ人目ヲ樂マシムレハ多ク之



ヲ諸品ノ裝飾ニ使用セリ  
 扶老鳥ノ一種ニシテサクレット、イビスト名クル  
 一鳥アリ埃及ニ於テハ神聖トナシ崇敬シテ一  
 般之ヲ禮拜ス一記者アリ其説ニ曰ク埃及ノ之  
 ヲ尊敬スル所以ハ多ク虫蛇ヲ逐捕シテ其災害  
 ヲ除クニ因ルナラント蓋シ然ラス是レ他ナシ  
 尼羅河ノ漲ルヤ此鳥必ス来ル其鳥来レハ河邊  
 必ス年豊カナリ故ニ之ヲ吉兆トス是レ其尊崇  
 スル所以ナルヘシ  
 ライルハ其性涉水泳水而鳥ヲ兼交スル一種ナ

リ其同族タル田鷄ノ能ク水中ニ潛泳シム。一。ル。  
 へ。田鷄ノ同シキヲ見ルモ亦之ヲ知ルニ足  
 ルヘシ

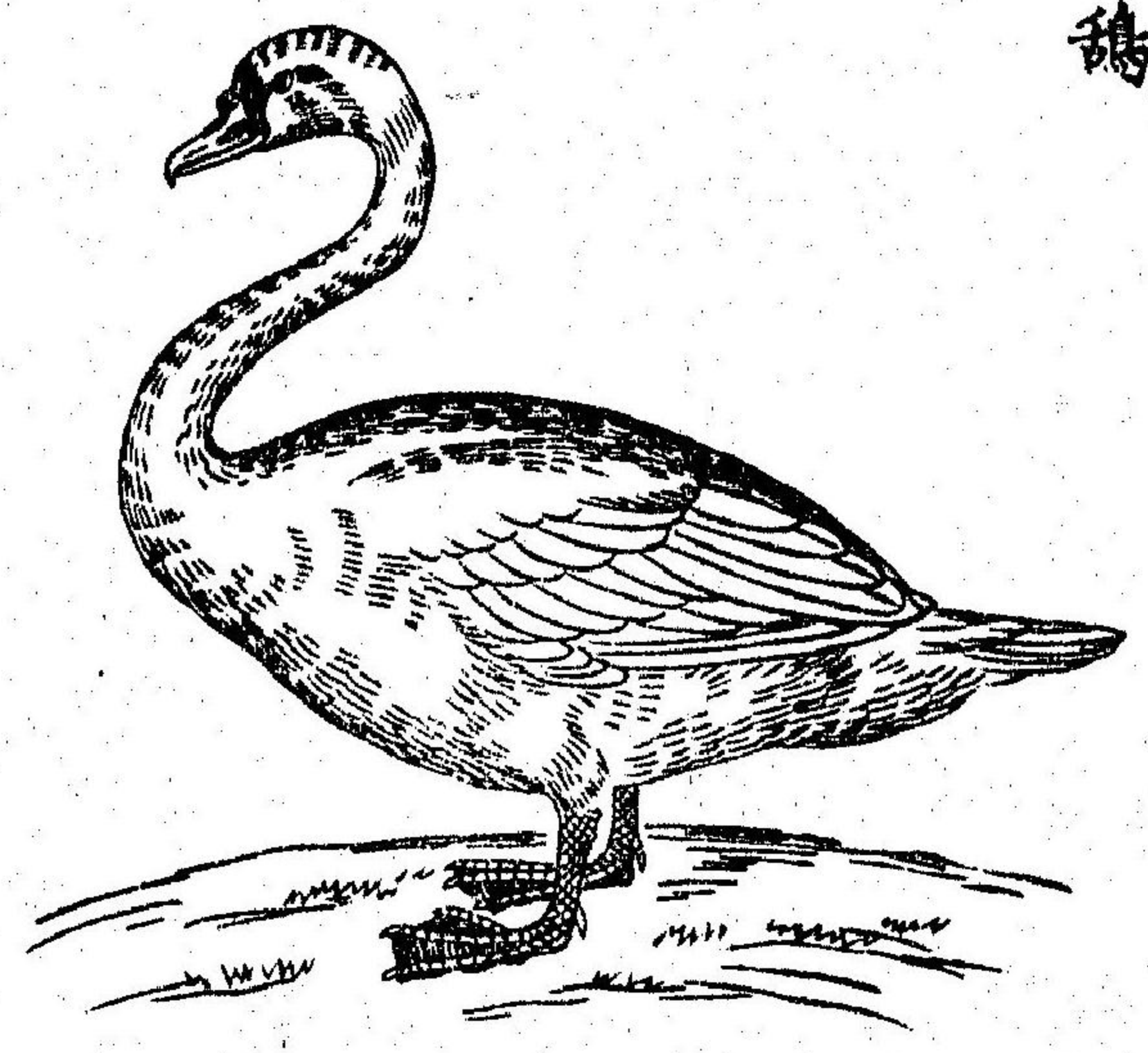
赤鶴モ亦淡水鳥ノ一種ニシテ其長脚ナルハ同  
 族中之レニ比スヘキモノナシ其形狀ハ甚タ小  
 ナレ其脚ト頸ト其丈量等シクシテ足ニ蹠膜ア  
 リ嘴モ亦長ク彎曲ス其卵ヲ産スルハ常ニ堤上  
 ニシテ鷗鳥来テ能ク之ヲ抱擁覆育ス  
 泳水鳥部トハ多ク水中ニ生活スル鳥類ニシテ  
 下腹部ニ脚ヲ有シ其趾ニ蹠ト名クル薄膜ヲ開



張ス之ヲ水中ニ動作スル恰モ船ノ橈ニ於ルカ  
 如シ故ニ一名之ヲ蹼掌鳥ト稱セリ又其羽翼ハ  
 極メテ厚ク全軀ニハ柔軟ナル羽毛ヲ密包シテ  
 表皮ヨリ常ニ油液ヲ外羽ニ送致セハ沈水スル  
 モ嘗テ身ニ水分ノ浸潤スルヲナシ而シテ其形  
 状多クハ短脚長頭タリ是レ泳水中毎ニ波間ノ  
 魚類ヲ啄ムニ便スル所以ナリ但シ其形狀ノ如  
 キハ第六十三圖ニ掲載スル鵠ヲ參見シテ他ヲ  
 推考スヘシ

泳水鳥部中ペンギン  
 △南極ノ海濱ニ住ト稱ス

第六十三圖  
 鵠



ルモノハ其脚腹  
 ノ最後部ニ在レ  
 ハ其立ツヤ稍真  
 直ナレ其翼ハ  
 甚タ狭小ニシテ  
 全ク羽翼ヲ待テ  
 翔行スル能ハス  
 然レ其水中ニ在  
 テ其翼ヲ動作ス  
 ルヲ見ルニ恰モ

動物篇  
 四九  
 本館堂藏



魚ノ鱗尾ニ於ルカ如シ又アルバトロス海鳥ノ  
 種ノ如キモペンギント其性ヲ同フスレ氏只  
 其大翼アルヲ以テ少シク其形狀ヲ異ニス  
 其アルバトロスナルモノハ水鳥中最大ノ一種  
 ニシテ翼ノ一端ヨリ他端ニ至ル迄其長サ殆ト  
 一丈四尺ニ達シ全身ノ重量ハ凡ソ二十有餘斤  
 ニ至ルト云フ  
 フリゲイト、ブルドモ亦殆トアルバトロスノ大  
 ヲナス水鳥ノ一種ニシテ海濱ヲ距ル凡ソ一千  
 里ノ中央ニ浮游シ魚類ヲ貪食シテ頗ル海中ニ

暴戾ヲ極ムト云フ  
 其他泳水鳥部ニ屬スル鳥類ハ即チ鴨ジブル水  
 名、アウク同、鷗、塘鵝等ノ一族是レナリ

博物全志動物篇卷之二 終



